日本語研修コース

深見兼孝

［修了者］

第 44 期生名簿（2007 年４月〜2007 年９月）［18 名］

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
Nisha Kumari	ニシャ	インド	日本語学	広島大学
Balakrishnan, Sarangaraja	サーランガラージャ	インド	環境科学	広島大学
Nindita, Yosi	ヨシ	インドネシア	分子生物工学	広島大学
Nguon Sokchen	ソクチェン	カンボジア	教育学	広島大学
Song Sopheak	ソペック	カンボジア	教育学	広島大学
No Fata	ノファタ	カンボジア	教育学	広島大学
Haque, Muhammad Sayeedul	サイードル	バングラデシュ	農業経済学	広島大学
Gabriel Alonzo Alulod	アロンゾ	フィリピン	食品微生物学	広島大学
Su Myat	スミャト	ミャンマー	海洋生物学	広島大学
Marcelo Freire Lasmar	マルセロ	ブラジル	建築学	広島大学
Çela Enian	エニアン	アルバニア	経済学	広島大学
Angerman, Osnat Zipora	オスナット	イスラエル	健康教育学	広島大学
Eltelib Hani Ahmad	ハニ	スーダン	農学	広島大学
Manasseh Emmanuel Chifuel	マナセ	タンザニア	電子情報工学	広島大学
Kuti, Olawole Abiola	クティ	ナイジェリア	機械工学	広島大学
Lamphayphan Thongphet	ランパイパン	ラオス	マクロ経済学	広島修道大学
Eugster Alexander	アレクサンダー	スイス	クラシックギター	エリザベト音楽大学
段暁東	ダン	中国	経済学	広島大学

［修了者］

第 45 期生名簿（2007 年 10 月〜2008 年３月）［18 名］

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
Eko Sumarsono	エコ	インドネシア	数学教育	広島大学
Bae, Eunyoung	ウニョン	大韓民国	教育思想	広島大学
Zhao Jia Hui	チアフイ	中国	幼児教育	広島大学
Cabajes, Angelie Virtudazo	アンジェリー	フィリピン	障害児教育	広島大学
Marasigan, Sherry Bayot	シェリー	フィリピン	社会科教育	広島大学
Macaranas, Almeda Caramat	アルメダ	フィリピン	数学教育	広島大学
San San Htway	サンサントエイ	ミャンマー	理科教育	広島大学
Sierra Becerra Carlos Humberto	カルロス	メキシコ	生涯環境学習教育	広島大学
Esuku David	エスク	ウガンダ	理科教育	広島大学
Haret, Mohamed Nassir	ハレット	ケニア	数学教育	広島大学
Maranu Andreia Diana	アンドレイア	ルーマニア	文化人類学	広島市立大学
金雪梅	キンセツバイ	中国	英語教育	広島大学
林楠	リンナン	中国	運動学	広島大学
Habibuddin Mohd, Hafiz	ハフィズ	マレーシア	電力系統工学	広島大学
Siddique MD. Anisuzzaman	シディック	バングラデシュ	情報工学	広島大学
Achmad Zamroni	ザムロニ	インドネシア	農学	広島大学
Chouichom Seksak	チョイチョム	タイ	農学	広島大学
Yousif Basim	バシム	イラク	農学	広島大学

講師一覧

第 44 期（2007 年４月～2007 年９月）

専任　浮田三郎　玉岡賀津雄　多和田眞一郎　中川正弘　深見兼孝
非常勤　伊ヶ崎泰枝　石井敬子　今石正人　後藤美知子　佐藤道雄

［専門用語解説］
江坂宗春（生物圏科学研究科）　大塚豊（教育学研究科）　大野修一（工学研究科）　片桐功（エリザベト音楽大学）　木梨陽康（先端物質科学研究科）　小松正昭（国際協力研究科）　佐久川弘（生物圏科学研究科）　迫田久美子（教育学研究科）　佐藤紀雄（エリザベト音楽大学）　杉本俊多（工学研究科）　中野宏幸（生物圏科学研究科）　長澤和也（生物圏科学研究科）　西田恵哉（工学研究科）　雛元孝夫（工学研究科）　平川幸子（国際協力研究科）　矢野順治（社会科学研究科）　山尾政博（生物圏科学研究科）　渡部和彦（教育学研究科）

第 45 期（2007 年 10 月～2008 年３月）

専任　浮田三郎　玉岡賀津雄　多和田眞一郎　中川正弘　深見兼孝
非常勤　伊ヶ崎泰枝　石井敬子　今石正人　後藤美知子　佐藤道雄

［専門用語解説］
朝倉淳（教育学研究科）　岩井千秋（広島市立大学）　岩崎秀樹（教育学研究科）　植田敦三（教育学研究科）　落合俊郎（教育学研究科）　小野章（教育学研究科）　小原友行（教育学研究科）　小山正孝（教育学研究科）　清水欽也（教育学研究科）　造賀芳文（工学研究科）　鳥越兼治（教育学研究科）　七木田敦（教育学研究科）　丸山恭司（教育学研究科）　森本康彦（工学研究科）　吉田将之（生物圏科学研究科）　余利野直人（工学研究科）　渡部和彦（教育学研究科）

第 44 期（2007 年４月〜2007 年９月）予定表

期日	行事／試験等	見学（総合演習）	備考
4／6	4／6（金） 11:00オリエンテーション(K308)		4／6（金） 13:30国際交流会館オリエンテーション 4／7（土）東広島オリエンテーションバスツアー
4／9—4／13	4／9（月） 11:00開講式（教育学部第3・4会議室）		4／9（月） 11:30ホストファミリー案内(K308) 16:30全学留学生オリエンテーション
4／16—4／20		4／20（金） 広島市	4／20（金） 17:30ホストファミリー対面式
4／23—4／27			
4／30—5／4			4／30（月）公休日 5／3（木）〜5／5（土）公休日
5／7—5／11			
5／14—5／18			
5／21—5／25		5／25（金） 宮島	
5／28—6／1			
6／4—6／8	6／6（水）中間試験 6／7（木）専門用語解説開始		
6／11—6／15			
6／18—6／22			
6／25-6／29			
7／2—7／6		7／6（金） マツダ	
7／9—7／13			
7／16—7／20			7／16（月）公休日
7／23—7／27			
7／30-7／31			
8／1—8／31	夏休み		
9／3－9／7	9／3（月）期末試験 9／4（火）－9／6（木）特別講義 9／7（金）10:00修了式・研修成果発表会(教育学部第3・4会議室）		

第 45 期（2007 年 10 月〜2008 年３月）予定表

期日	行事／試験等	見学（総合演習）	備考
10／8－10／12	10／9（火） 11:00コースオリエンテーション （K308） 10／10（水） 11:00開講式(教育学部第3･4会議室)		10／8（月）体育の日（祝日） 10／9（火）16:00全学新入留学生オリエンテーション(K108) 10／10（水） 11:30ホストファミリー案内（K308）
10／15－10／19			10／20（土）10:00国際交流会館消防訓練
10／22－10／26		10／26（金） 広島市	10／26（金） 17:00ホストファミリー対面式
10／29－11／2			11／3（土）文化の日（祝日）
11／5－11／9			
11／12－11／16	11／15（木）「専門用語解説」開始 （〜1／24）	11／16（金） 宮島	
11／19－11／23			11／23（金）勤労感謝の日（祝日）
11／26－11／30			
12／3－12／7	12／5（水）中間試験		
12／10－12／14			
12／17－12／21			
12／24-1／7	冬休み		12／24（月）天皇誕生日（祝日） 1／1（火）元旦（祝日）
1／8－1／11			
1／14－1／18			1／14（月）成人の日（祝日）
1／21－1／25		1／25（金） マツダ	
1／28－2／1			
2／4－2／8			
2／11- 2／15			2／11（月）建国記念の日（祝日）
2／18- 2／22	2／20（水）期末試験 2／21（木）〜21（金）特別講義		
2／25－2／29	2／25（月）〜29（金）特別講義		
3／3	3／3（月） 13:30修了式(教育学部第3･4会議室) 14:00成果発表会（〃）		

日本語教育部門：日本語・日本事情
（２００７年４月～２００８年３月）

田　村　泰　男

１．授業科目一覧
・東広島キャンパス

授　業　科　目	開　設 単位数	学期別週授業時数 前　期	後　期	備　　考
総合日本語初級ＩＡ	１・１	2	2	広島大学外国人留学生のための授業である。
総合日本語初級ＩＢ	１・１	2	2	
総合日本語初級ＩＣ	１・１	2	2	
総合日本語初級ⅡＡ	１・１	2	2	
総合日本語初級ⅡＢ	１・１	2	2	
総合日本語初級ⅡＣ	１・１	2	2	
総合日本語中級ＩＡ	1	2		
総合日本語中級ＩＢ	1	2		
総合日本語中級ＩＣ	1	2		
総合日本語中級ＩＤ	1		2	
総合日本語中級ＩＥ	1		2	
総合日本語中級ＩＦ	1		2	
総合日本語中級ⅡＡ	1	2		
総合日本語中級ⅡＢ	1	2		
総合日本語中級ⅡＣ	1	2		
総合日本語中級ⅡＤ	1		2	
総合日本語中級ⅡＥ	1		2	
総合日本語中級ⅡＦ	1		2	

日本語聴解特別演習Ａ	1	2		
日本語聴解特別演習Ｂ	1		2	
日本語分析特別演習Ａ	1	2		
日本語分析特別演習Ｂ	1		2	
日本語表現特別演習Ａ	1	2		
日本語表現特別演習Ｂ	1		2	
日本語古文特別演習Ａ	1	2		
日本語古文特別演習Ｂ	1		2	
日本語語彙特別演習Ａ	1	2		
日本語語彙特別演習Ｂ	1		2	
映像日本語特別演習Ａ	1	2		
映像日本語特別演習Ｂ	1		2	
日本の社会・文化Ａ	1	2		
日本の社会・文化Ｂ	1		2	
日本の思想・哲学Ａ	1	2		
日本の思想・哲学Ｂ	1		2	
日本の地域・文化Ａ	1	2		
日本の地域・文化Ｂ	1		2	
日本語･日本文化特別研究ＩＡ	4		4	
日本語･日本文化特別研究ＩＢ	4		4	
日本語･日本文化特別研究ＩＣ	4		4	
日本語･日本文化特別研究ⅡＡ	4	4		
日本語･日本文化特別研究ⅡＢ	4	4		
日本語･日本文化特別研究ⅡＣ	4	4		

霞キャンパス

授　業　科　目	開　設 単位数	学期別週授業時数		備　　考
		前　期	後　期	
総合日本語初級ＩＡ	１・１	２	２	広島大学外国人留学生のための授業である。
総合日本語初級ＩＢ	１・１	２	２	
総合日本語初級ⅡＡ	１・１	２	２	

２．授業内容

（東広島キャンパス）
・レベル１

授業科目	総合日本語初級ＩＡ・ＩＢ・ＩＣ
担当教員	石原 淳也・深見 兼孝・下村 真理子・山中 康子
目　　標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内　　容	**1.**文字の導入　**2.**基本文型の導入 **3.**音読練習　**4.**口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級Ｉ　本冊」（スリーエーネットワーク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル２

授業科目	総合日本語初級ⅡＡ・ⅡＢ・ⅡＣ
担当教員	田村 泰男・中川 正弘・下村 真理子
目　　標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内　　容	第 **1** 週－第 **5** 週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト**(1)** 第 **6** 週－第 **10** 週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト**(2)** 第 **11** 週－第 **15** 週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト**(3)**
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ　本冊」（スリーエーネットワーク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル３

授業科目	総合日本語中級ＩＡ・ＩＢ
担当教員	浮田 三郎・渡部 浩見
目　　標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内　　容	扱う内容は以下の通り。 第1週～第7週 グラフの読み方、旅行、手紙、手紙の書き方、買い物、テスト(1) 第8週～第15週 祭り、プレゼント、アンケート、アンケートの方法、テスト(2)
テキスト	「トピックによる日本語総合演習・中級前期」 （スリーエーネットワーク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級ＩＣ
担当教員	坂田 光美
目　　標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内　　容	各課ひとつのトピックスについての文章をテープを通して聞き、それについての質問に答えていく。文章は、各課ごとにの次第に長くなっていくが、練習によって、理解した事柄を口頭でも、筆記でも答えられるようパターン学習する。
テキスト	「毎日の聞き取り５０日 vol.2」（凡人社）
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

授業科目	総合日本語中級ＩＤ・ＩＥ
担当教員	浮田 三郎・渡部 浩見
目　　標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内　　容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第 **1** 週～第 **7** 週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第 **8** 週～第 **15** 週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語 **2nd** ステップ」（白帝社）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級ＩＦ
担当教員	下村 真理子
目　　標	音声教材を用いて、一定の長さの説明文や解説文の聞き取り能力を養うとともに、総合的な日本語能力を高める。
内　　容	１）トピックに関するＣＤを聞いて質問に答え、内容を理解する。 ２）スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 ３）内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。
テキスト	「新毎日の聞き取り５０日 vol.1」（凡人社）
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

・レベル４

授業科目	総合日本語中級ⅡＡ・ⅡＢ
担当教員	田村 泰男・坂田 光美
目　　標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内　　容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。 授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ざるをえない、～ようになる、できるだけ～、～おかげで、 ～のように、～よりもむしろ～のほうが、～ことだ、～のだ、 ～とはなしに～していると、かえって～、せめて～たら、 ～するやいなや、お／ご～、たとえ～ても、～（と）している、 ～がち、～た／だ上で、～わけにはいかない、～うちに、 ～た途端、～かねない、～とのことである、～にわたって、 ～とともに、まるで～ようだ、～さ／～み／～め
テキスト	「日本語中級読解新版」（アルク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡＣ
担当教員	山中 康子
目　　標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内　　容	教材を聴く前に先ず、 **(1)**イラストによって、教材の内容を概観する。 **(2)**関連語彙や、背景となる知識を導入する。 **(3)**教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後 **(4)**タスクに答える。 **(5)**話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 **(6)**語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 **(7)**音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取り **plus40** 下」（凡人社）
成績評価の方法	試験、出席、課題

授業科目	総合日本語中級ⅡＤ・ⅡＥ
担当教員	田村 泰男・坂田 光美
目　　標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内　　容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読　み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作　文によって新出項目の定着を図る。授業では、特に次の語彙・表　現の解説を行う。ながら、まい、わけだ、でも、ほど、なら、ても、てくる、てしまう、ながら、よう、がる、ことにする／なる、～とか～とか、てたまらない、ばかり、ものだ、てみる、　中、～し～し、かもしれません、つもり、くらい、なければならない、まま、～から～にかけて、ものの、～やら～やら、につれて、～ば～ほど、として、によって、ところ、にとって、はず、さえ、うち
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」（研究社）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡＦ
担当教員	山中 康子
目　　標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内　　容	教材を聴く前に先ず、 **(1)**イラストによって、教材の内容を概観する。 **(2)**関連語彙や、背景となる知識を導入する。 **(3)**教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後 **(4)**タスクに答える。 **(5)**話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 **(6)**語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 **(7)**音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取り **plus40** 上」（凡人社）
成績評価の方法	試験、出席、課題

・レベル５

授業科目	日本語聴解特別演習Ａ
担当教員	深見 兼孝
目　　標	現代日本のさまざまな問題を取り上げた時事エッセイの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内　　容	次のような段階を踏んで、内容を理解する練習を行う。 後にそれを文字化したものを読み、理解を補う。 1）キーワードの理解と聞き取り 2）概要の把握 3）細部の聞き取り さらに、重要語句の使い方について練習する。
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	日本語聴解特別演習Ｂ
担当教員	深見 兼孝
目　　標	ニュースの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内　　容	ニュースを聞き、次の段階を踏んでその内容を理解する練習を行う。また、スクリプトの完成を行うことによって、漢字、語彙、表現の使い方を学習する。 **1)** キーワードの理解と聞き取り **2)** 概要の聞き取り **3)** 細部の聞き取り **4)** ディクテーション
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	日本語分析特別演習Ａ
担当教員	中川 正弘
目　　標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内　　容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	日本語分析特別演習Ｂ
担当教員	中川 正弘
目　　標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内　　容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	日本語表現特別演習Ａ
担当教員	浮田　三郎
目　　標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内　　容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。 テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 諺の表現法　2. 親と子　3. 夫婦　4. 恋愛 5. 油断と用心　6. 欲　7. 酒　8. 友　9. 秘密
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（１９８２年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	日本語表現特別演習Ｂ
担当教員	浮田　三郎
目　　標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内　　容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、 留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。 **1.**睡眠　**2.**病気　**3.**生死　**4.**季節　**5.**天候 **6.**学者　**7.**教育　**8.**義理　**9.**動物と比喩
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（１９８２年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	日本語古文特別演習Ａ
担当教員	多和田　眞一郎
目　　標	「日本語古文」基礎を学習する。 日本語古文読解のための基本的知識を身につける。
内　　容	現代日本語との関連を考慮に入れながら、日本語古文を理解するための基礎力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の心得についても考える。 （内容） 　現代語と古典語、古典語文法基礎、十九世紀の日本語の例、 十八世紀の日本語の例、十七世紀の日本語の例、漢文の基礎等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	日本語古文特別演習Ｂ
担当教員	多和田　眞一郎
目　　標	日本語古文特別演習 **A** を踏まえ、「日本語古文」の応用学習をする。日本語古文読解のための応用的知識を身につける。
内　　容	日本語古文読解ための応用力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の問題点についても考える。 （内容） 　現代語と古典語、古典語文法、十九世紀の日本語の読解、 　十八世紀の日本 語の読解、十七世紀の日本語の読解、 　漢文の読解等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	日本語語彙特別演習Ａ
担当教員	田村 泰男
目　　標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内　　容	1. 漢字の訓読み 2. 同訓異字 3. 各種比喩表現 4. 身体語彙を使った慣用句 5. 動植物の語彙を使った慣用句 6. 擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	日本語語彙特別演習Ｂ
担当教員	田村 泰男
目　　標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内　　容	**1.**特別な読み方をする漢字 **2.**送り仮名によって読み方の違う漢字 **3.**読み方が二通りある漢字熟語 **4.**国字　**5.**畳語　**6.**類義語・類意表現 **7.**若者語　**8.**外来語　**9.**接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	映像日本語特別演習Ａ
担当教員	石原 淳也
目　　標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、**1)**日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、**2)**セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、**3)**映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、**4)**映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ることを目標とする。
内　　容	第 **1** 週-第 **9** 週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第 **10** 週-第 **15** 週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

授業科目	映像日本語特別演習Ｂ
担当教員	石原 淳也
目　　標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 **1)**日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと **2)**セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと **3)**映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること **4)**映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ることを目標とする。
内　　容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

・日本事情

授業科目	日本の社会・文化Ａ
担当教員	中矢 礼美
目　　標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、生命倫理学、教育学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内　　容	1. 2.　若者のライフスタイルと職業意識 3. 4.　日本における「中流階級文化」 5. 6.　ジェンダーフリー　　7.　試験 8. 9.　生命倫理　10. 11. 12.　現代家族の様相 13. 14. 現代の教育課題と教育改革　15.　試験.
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50％、試験50％

授業科目	日本の社会・文化Ｂ
担当教員	中矢 礼美
目　　標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、教育学、人類学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内　　容	**1. 2.**　メディアとは何か **3. 4.**　サブカルチャーとは何か **5. 6.**　少年犯罪 **7.**　試験 **8. 9.**　男性学と女性学 **10. 11.**　教育問題―不登校・学級崩壊 **12. 13. 14.**　観光人類学－観光のしかけ・観光が作り出す文化 **15.**　試験
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50％、試験50％

授業科目	日本の思想・哲学A
担当教員	橋本 敬司
目　　標	日本の思想・哲学を歴史的あるいは現代的に考察することにより、学習者各自が日本と日本人を発見するとともに自らの思想を形成していくこと。
内　　容	方丈記、平家物語などのテキストを読み、歴史的に日本人の思想・哲学を支える無常観・死生観・美意識などについて考察する。
テキスト	随時コピーを配布する。
成績評価の方法	出席とレポート

授業科目	日本の思想・哲学B
担当教員	橋本 敬司
目　　標	日本の思想・哲学を歴史的あるいは現代的に考察することにより、学習者各自が日本と日本人を発見するとともに自らの思想を形成していくこと。
内　　容	「日本の思想・哲学 A」の学習をもとに、現代の病理として生じた事件を取り上げ、その裏に潜む日本人の思想・哲学について考察する。
テキスト	随時コピーを配布する。
成績評価の方法	出席とレポート

授業科目	日本の地域・文化Ａ
担当教員	玉岡　賀津雄
目　　標	日本の地域と文化を理解すること。
内　　容	広島大学の留学生を対象に，日本の地域と文化を紹介する。地域の文化遺産，風土，人々の生活を探っていく。授業では，ビデオ，**DVD** などを使って，実際の映像から日本の地域や文化を広く理解する。また，ゲストを招いて，さまざまな地域の紹介や討論を行う。地域と文化Ａでは，日本の南の地域(東京から南)を中心に紹介する。
テキスト	特になし
成績評価の方法	日々の授業への出席と活発な参加・短い事例報告・短い発表。

授業科目	日本の地域・文化Ｂ
担当教員	玉岡　賀津雄
目　　標	日本の地域と文化を理解すること。
内　　容	地域と文化Ａと引き続き，広島大学の留学生を対象に，日本の地域と文化を紹介する。地域の文化遺産，風土，人々の生活を探っていく。授業では，ビデオ，**DVD** などを使って，実際の映像から日本の地域や文化を広く理解する。また，ゲストを招いて，さまざまな地域の紹介や討論を行う。地域と文化Ｂでは，日本の北の地域(東　京より北)を中心に紹介する。
テキスト	特になし。
成績評価の方法	日々の授業への出席と活発な参加・短い事例報告・短い発表。

・特定研究

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅰ
担当教員	中川 正弘・田村 泰男・石原 淳也
目　　標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内　　容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション、日本語・日本文化特別講義 **I** ～ **VI**、 地域研修 **I** ～ **VI**、研修レポート構想発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価の方法	出席・レポート・宿題

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅱ
担当教員	中川 正弘・田村 泰男・石原 淳也
目　　標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内　　容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション、研修レポート構想発表、 日本語・日本文化特別講義VII～XII、地域研修VII～XII、 研修レポート要旨発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価の方法	出席・レポート・宿題

（霞キャンパス）
・レベル１

授業科目	総合日本語初級ＩＡ・ＩＢ
担当教員	山中 康子・渡部 浩見
目　　標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内　　容	**1.**文字の導入 **2.**基本文型の導入 **3.**音読練習 **4.**口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級Ｉ　本冊」（スリーエーネットワーク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル２

授業科目	総合日本語初級ⅡＡ
担当教員	渡部 浩見
目　　標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内　　容	このクラスでは、次の語彙・文型・表現を学習する。 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、授受表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ　本冊」（スリーエーネットワーク）
成績評価の方法	出席・試験

日本語教育部門：留学生関係科目
（２００７年４月～２００８年３月）

田　村　泰　男

１．授業科目一覧
・東広島キャンパス

授　業　科　目	開　設 単位数	学期別週授業時数 前　期	後　期	備　　考
Elementary Japanese I A	2		2	広島大学短期交換留学生のための授業である。
Elementary Japanese I B	2		2	
Elementary Japanese I C	2		2	
Elementary Japanese I D	2		2	
Elementary Japanese II A	2・2	2	2	
Elementary Japanese II B	2・2	2	2	
Elementary Japanese II C	2・2	2	2	
Intermediate Japanese I A	2		2	
Intermediate Japanese I B	2		2	
Intermediate Japanese I C	2		2	
Intermediate Japanese I D	2	2		
Intermediate Japanese I E	2	2		
Intermediate Japanese I F	2	2		
Intermediate Japanese II A	2		2	
Intermediate Japanese II B	2		2	
Intermediate Japanese II C	2		2	
Intermediate Japanese II D	2	2		
Intermediate Japanese II E	2	2		
Intermediate Japanese II F	2	2		

Advanced Japanese A (Listening)	2	2		
Advanced Japanese B (Listening)	2		2	
Advanced Japanese A (Analysis)	2	2		
Advanced Japanese B (Analysis)	2		2	
Advanced Japanese A (Expression)	2	2		
Advanced Japanese B (Expression)	2		2	
Advanced Japanese A (Classical)	2	2		
Advanced Japanese B (Classical)	2		2	
Advanced Japanese A (Lexical)	2	2		
Advanced Japanese B (Lexical)	2		2	
Advanced Japanese A (Cinema)	2	2		
Advanced Japanese B (Cinema)	2		2	
Japanese Society and Culture A	2	2		
Japanese Society and Culture B	2		2	
Japanese Thought and Philosophy A	2	2		
Japanese Thought and Philosophy B	2		2	
Japanese Community and Culture A	2	2		
Japanese Community and Culture B	2		2	

２．授業内容
（東広島キャンパス）
・レベル１

授業科目	**Elementary Japanese I A・I B・I C**
担当教員	堀田 泰司・渡辺 久美
目　　標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内　　容	**1.**文字の導入　**2.**基本文型の導入 **3.**音読練習　**4.**口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅰ　本冊」（スリーエーネットワーク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル２

授業科目	**Elementary Japanese II A・II B・II C**
担当教員	恒松 直美
目　　標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内　　容	第 **1** 週－第 **5** 週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト**(1)** 第 **6** 週－第 **10** 週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト**(2)** 第 **11** 週－第 **15** 週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト**(3)**
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ　本冊」（スリーエーネットワーク）
成績評価の方法	出席・小テスト・宿題・中間期末試験

・レベル３

授業科目	**Intermediate Japanese I A・I B**
担当教員	石原 淳也
目　　標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内　　容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第 **1** 週～第 **7** 週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第 **8** 週～第 **15** 週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語 **2nd** ステップ」（白帝社）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	**Intermediate Japanese I C**
担当教員	下村 真理子
目　　標	音声教材を用いて、一定の長さの説明文や解説文の聞き取り能力を養うとともに、総合的な日本語能力を高める。
内　　容	１）トピックに関するＣＤを聞いて質問に答え、内容を理解する。 ２）スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 ３）内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。
テキスト	「新毎日の聞き取り５０日 vol.1」（凡人社）
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

授業科目	**Intermediate Japanese I D・I E**
担当教員	石原 淳也
目　　標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内　　容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第 **1** 週～第 **7** 週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第 **8** 週～第 **15** 週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語 **2nd** ステップ」（白帝社）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	**Intermediate Japanese I F**
担当教員	下村 真理子
目　　標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内　　容	各課ひとつのトピックスについての文章をテープを通して聞き、それについての質問に答えていく。文章は、各課ごとにの次第に長くなっていくが、練習によって、理解した事柄を口頭でも、筆記でも答えられるようパターン学習する。
テキスト	「毎日の聞き取り５０日 vol.2」（凡人社）
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

・レベル４

授業科目	**Intermediate Japanese II A・II B**
担当教員	田村 泰男
目　　標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内　　容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。ながら、まい、わけだ、でも、ほど、なら、ても、てくる、てしまう、ながら、よう、がる、ことにする／なる、～とか～とか、てたまらない、ばかり、ものだ、てみる、 中、～し～し、かもしれません、つもり、くらい、なければならない、まま、～から～にかけて、ものの、～やら～やら、につれて、～ば～ほど、として、によって、ところ、にとって、はず、さえ、うち
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」（研究社）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	**Intermediate Japanese II C**
担当教員	坂田 光美
目　　標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内　　容	教材を聴く前に先ず、**(1)**イラストによって、教材の内容を概観する。**(2)**関連語彙や、背景となる知識を導入する。**(3)**教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後、**(4)**タスクに答える。**(5)**話題に関連した補足説明 を読み、知識を深める。**(6)**語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。**(7)**音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取り **plus40** 上」（凡人社）
成績評価の方法	試験、出席、課題

授業科目	**Intermediate Japanese II D・II E**
担当教員	田村 泰男
目　　標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内　　容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。 授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ざるをえない、～ようになる、できるだけ～、～おかげで、 ～のように、～よりもむしろ～のほうが、～ことだ、～のだ、 ～とはなしに～していると、かえって～、せめて～たら、 ～するやいなや、お／ご～、たとえ～ても、～（と）している、 ～がち、～た／だ上で、～わけにはいかない、～うちに、 ～た途端、～かねない、～とのことである、～にわたって、 ～とともに、まるで～ようだ、～さ／～み／～め
テキスト	「日本語中級読解新版」（アルク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	**Intermediate Japanese II F**
担当教員	坂田 光美
目　　標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内　　容	教材を聴く前に先ず、**(1)**イラストによって、教材の内容を概観する。**(2)**関連語彙や、背景となる知識を導入する。**(3)**教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後、**(4)**タスクに答える。**(5)**話題に関連した補足説明 を読み、知識を深める。**(6)**語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。**(7)**音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取り **plus40** 下」（凡人社）
成績評価の方法	試験、出席、課題

・レベル５

授業科目	**Advanced Japanese A (Listening)**
担当教員	深見 兼孝
目　　標	現代日本のさまざまな問題を取り上げた時事エッセイの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内　　容	次のような段階を踏んで、内容を理解する練習を行う。 後にそれを文字化したものを読み、理解を補う。 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の把握 3) 細部の聞き取り さらに、重要語句の使い方について練習する。
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	**Advanced Japanese B (Listening)**
担当教員	深見 兼孝
目　　標	ニュースの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内　　容	ニュースを聞き、次の段階を踏んでその内容を理解する練習を行う。また、スクリプトの完成を行うことによって、漢字、語彙、表現の使い方を学習する。 **1)** キーワードの理解と聞き取り **2)** 概要の聞き取り **3)** 細部の聞き取り **4)** ディクテーション
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	**Advanced Japanese A (Analysis)**
担当教員	中川 正弘
目　　標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内　　容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	**Advanced Japanese B (Analysis)**
担当教員	中川 正弘
目　　標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内　　容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	**Advanced Japanese A (Expression)**
担当教員	浮田　三郎
目　　標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内　　容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。 テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 諺の表現法　2. 親と子　3. 夫婦　4. 恋愛 5. 油断と用心　6. 欲　7. 酒　8. 友　9. 秘密
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（１９８２年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	**Advanced Japanese B (Expression)**
担当教員	浮田　三郎
目　　標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内　　容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、 留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。 **1.**睡眠　**2.**病気　**3.**生死　**4.**季節　**5.**天候 **6.**学者　**7.**教育　**8.**義理　**9.**動物と比喩
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（１９８２年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	**Advanced Japanese A (Classical)**
担当教員	多和田 眞一郎
目　　標	「日本語古文」基礎を学習する。 日本語古文読解のための基本的知識を身につける。
内　　容	現代日本語との関連を考慮に入れながら、日本語古文を理解するための基礎力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の心得についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法基礎、十九世紀の日本語の例、 十八世紀の日本語の例、十七世紀の日本語の例、漢文の基礎等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	**Advanced Japanese B (Classical)**
担当教員	多和田 眞一郎
目　　標	日本語古文特別演習 **A** を踏まえ、「日本語古文」の応用学習をする。日本語古文読解のための応用的知識を身につける。
内　　容	日本語古文読解ための応用力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の問題点についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法、十九世紀の日本語の読解、 十八世紀の日本 語の読解、十七世紀の日本語の読解、 漢文の読解等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	**Advanced Japanese A (Lexical)**
担当教員	田村 泰男
目　　標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内　　容	1. 漢字の訓読み 2. 同訓異字 3. 各種比喩表現 4. 身体語彙を使った慣用句 5. 動植物の語彙を使った慣用句 6. 擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	**Advanced Japanese B (Lexical)**
担当教員	田村 泰男
目　　標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内　　容	**1.**特別な読み方をする漢字 **2.**送り仮名によって読み方の違う漢字 **3.**読み方が二通りある漢字熟語 **4.**国字　**5.**畳語　**6.**類義語・類意表現 **7.**若者語　**8.**外来語　**9.**接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	**Advanced Japanese A (Cinema)**
担当教員	石原 淳也
目　　標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、**1)**日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、**2)**セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、**3)**映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、**4)**映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ることを目標とする。
内　　容	第 **1** 週-第 **9** 週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第 **10** 週-第 **15** 週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

授業科目	**Advanced Japanese B (Cinema)**
担当教員	石原 淳也
目　　標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 **1)**日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと **2)**セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと **3)**映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること **4)**映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ることを目標とする。
内　　容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

・日本事情

授業科目	**Japanese Society and Culture A**
担当教員	中矢 礼美
目　　標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、生命倫理学、教育学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内　　容	1. 2. 若者のライフスタイルと職業意識 3. 4. 日本における「中流階級文化」 5. 6. ジェンダーフリー　7. 試験 8. 9. 生命倫理　10. 11. 12. 現代家族の様相 13. 14. 現代の教育課題と教育改革　15. 試験.
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	**Japanese Society and Culture B**
担当教員	中矢 礼美
目　　標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、教育学、人類学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内　　容	**1. 2.** メディアとは何か **3. 4.** サブカルチャーとは何か **5. 6.** 少年犯罪 **7.** 試験 **8. 9.** 男性学と女性学 **10. 11.** 教育問題―不登校・学級崩壊 **12. 13. 14.** 観光人類学－観光のしかけ・観光が作り出す文化 **15.** 試験
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	**Japanese Thought and Philosophy A**
担当教員	橋本 敬司
目　　標	日本の思想・哲学を歴史的あるいは現代的に考察することにより、学習者各自が日本と日本人を発見するとともに自らの思想を形成していくこと。
内　　容	方丈記、平家物語などのテキストを読み、歴史的に日本人の思想・哲学を支える無常観・死生観・美意識などについて考察する。
テキスト	随時コピーを配布する。
成績評価の方法	出席とレポート

授業科目	**Japanese Thought and Philosophy B**
担当教員	橋本 敬司
目　　標	日本の思想・哲学を歴史的あるいは現代的に考察することにより、学習者各自が日本と日本人を発見するとともに自らの思想を形成していくこと。
内　　容	「日本の思想・哲学 **A**」の学習をもとに、現代の病理として生じた事件を取り上げ、その裏に潜む日本人の思想・哲学について考察する。
テキスト	随時コピーを配布する。
成績評価の方法	出席とレポート

授業科目	**Japanese Community and Culture A**
担当教員	玉岡 賀津雄
目　　標	日本の地域と文化を理解すること。
内　　容	広島大学の留学生を対象に，日本の地域と文化を紹介する。地域の文化遺産，風土，人々の生活を探っていく。授業では，ビデオ，**DVD** などを使って，実際の映像から日本の地域や文化を広く理解する。また，ゲストを招いて，さまざまな地域の紹介や討論を行う。地域と文化Ａでは，日本の南の地域(東京から南)を中心に紹介する。
テキスト	特になし
成績評価の方法	日々の授業への出席と活発な参加・短い事例報告・短い発表。

授業科目	**Japanese Community and Culture B**
担当教員	玉岡 賀津雄
目　　標	日本の地域と文化を理解すること。
内　　容	地域と文化Ａと引き続き，広島大学の留学生を対象に，日本の地域と文化を紹介する。地域の文化遺産，風土，人々の生活を探っていく。授業では，ビデオ，**DVD** などを使って，実際の映像から日本の地域や文化を広く理解する。また，ゲストを招いて，さまざまな地域の紹介や討論を行う。地域と文化Ｂでは，日本の北の地域(東京より北)を中心に紹介する。
テキスト	特になし。
成績評価の方法	日々の授業への出席と活発な参加・短い事例報告・短い発表。

第22期（2006---2007）
日本語・日本文化研修プログラム

石原淳也

＜プログラム概要＞

本プログラムは、本留学生センターで受け入れる大使館推薦による「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を中心に、部局間協定に基づき教育学部で受け入れられている「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を対象に加え、留学生センターの四人の教員からなる「日本語・日本文化研修プログラム実施委員会」により運営されている。また、本プログラムは（1）全学の留学生向けの「日本語・日本事情」で開設されているクラスから選択履修する「日本語研修」、（2）学内外の講師による特別講義および文化施設・文化財等の見学などからなる「日本語・日本文化特別研究 I, II」、そして（3）指導教官のもとでの「個別指導および課題研究」の三つの内容により構成されている。

研修生は「個別指導および課題研究」での研究経過を「日本語・日本文化特別研究 I, II」の時間中に構想発表および中間発表として発表するとともに、修了式の前に行われる研修成果発表会においてその研究の成果を発表し、指導教官と留学生センターにレポートを提出する。留学生センターでは毎年これらをまとめて研修レポート集として刊行している。

＜受け入れ学生の概要＞

第22期の研修留学生の出身国、男女比の構成は次の通りであった（括弧内は、うち部局間協定に基づく教育学部受け入れ人数。）。

男子1　女子9（1）

出身国

インド2、中国1、香港3、ベトナム1、モンゴル1、ニュージーランド1（1）

＜特別講義等＞

18 年度（第 22 期）日本語・日本文化特別研究、および、その他の行事は、以下の通りである。

2006 年度後期（第 22 期前半）　日本語・日本文化研修プログラム（特別研究 I）

10 月

10（火）	開講式	石原
	オリエンテーション	中川
13（金）	特別講義「コンピュータ利用」	中川
20（金）	広島見学1（広島城・平和公園）	石原
27（金）	特別講義「音声学」	石原
29（日）	留学生ミカン狩り	

11 月

3（金）	休み（文化の日）	
10（金）	広島見学2（現代美術館ほか）	中川
17（金）	特別講義「現代日本語の語彙」	田村
24（金）	宮島見学	中川

12 月

1（金）	特別講義「日本人にとっての平和」	松尾（浮田）
8（金）	特別講義「日本の考古学」	古瀬（浮田）
15（金）	西条酒造会社見学	田村
22（金）	冬休み	

1 月

12（金）	特別講義「日本語と文体」	中川
20-21（土-日）	江田島国際交流キャンプ	中矢
26（金）	福山見学	田村

2 月

2（金）	特別講義「俳句入門」	浮田

3 月

30-31（金-土）	瀬戸内海しまなみ研修ツアー	中川

2007年度前期（第22期後半）　日本語・日本文化研修プログラム（特別研究 II）

4月

13（金）	オリエンテーション 2	中川
20（金）	尾道見学	田村
27（金）	研修レポート構想発表	石原

5月

4（金）	休日	
11（金）	特別講義「平和国家日本」	中園（浮田）
18（金）	特別講義「文化比較の視点」	浮田
25（金）	特別講義「日本の農業」	マハラジャン（浮田）

6月

1（金）	特別講義「沖縄のことば」	多和田
8（金）	特別講義「日本の教育」	田畑
15（金）	呉市・下蒲刈島見学	中川
22（金）	特別講義「日本社会とジェンダー」	恒松
29（金）	サタケ見学	中川

7月

6（金）	マツダ見学	石原
7（土）	ホームステイ協会交流会	中川
13（金）	研修レポート中間発表	石原
20（金）	特別講義「日本の考古学」	古瀬（浮田）
27（金）	松江・出雲見学旅行	石原

9月

3（月）	レポート提出締め切り	石原
6（木）	修了式、研修レポート発表会	石原

第8期　平成19年度（2007年度）
広島大学日韓共同理工系学部留学生事業入学前予備教育

石原淳也

平成10年10月の「日韓共同宣言」、平成12年8月に文部省より通知のあった「日韓共同理工系学部留学生事業実施要項」、同年8月に決定された「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施要項および「広島大学日韓理工系学部留学生事業」入学前予備教育実施要項に基づき、平成12年11月より広島大学においても学部入学前予備教育生に対する「広島大学日韓理工系学部留学生事業」の予備教育が開始された。以来、平成15年度まで各5名ずつ、平成16年度は2名、17年度5名、18年度4名、そして本年19年度は5名の受け入れとなった。

留学生センターは同事業の立ち上げ段階である平成12年6月の「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」ワーキンググループ（国際交流委員会の下に設置され、同年8月「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会となる。）の発足段階から同事業の予備教育実施機関として中心的な役割を果たしてきた（平成12年度、13年度の経緯については多和田教授による「広島大学日韓理工系学部留学生事業発足前後」『広島大学留学生教育第6号』を参照。）が、法人化による国際交流委員会の廃止で、平成16年度より「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会は留学生センター運営委員会のもとに組織されることとなり、本事業に対する留学生センターの関与はより大きくなってきている。

本事業において留学生センターは

1. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」実施部会への参加
2. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」予備教育の実施
3. 学部入学前予備教育生に対する修学上・生活上の指導・助言（センターの部会委員は予備教育期間中指導教員となる）
4. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」予備教育の計画策定

5. 見学引率
6. 日本語教育謝金講師の指導・サポート
7. その他謝金講師のサポート
8. 予備教育講師謝金等経費の管理
9. 学生チューターの指導
等の業務を行っている。

予備教育について

平成15年度までは、入学前予備教育において、日韓共同理工系学部留学生用に特別の日本語教育を開講していたが、平成16年度からは全学の留学生に向け開講されている「日本語・日本事情」のレベル3とレベル4を週当たり計6コマ（12時間）履修させることとなった。また、この変更に伴い、学生の日本語能力の差にきめ細かく目配りできるよう、17年度より、本予備教育生用に日本語会話、日本語作文を各1コマ開設することとした。また、本年度も生物系の学科へ進学する可能性のある者がいるため、昨年度に引き続き生物のクラスを開設することとした。なお、本19年度における予備教育科目および週当たり時間数は以下の通りである。

	月	火	水	木	金
1	生物 福島		化学２ 山田	物理１ 村高	日本語会話 坂田
2	日本語 L4 田村	日本語 L3 渡辺	数学２ 千々和	日本語 L4 坂田	文化論 坂田
3	日本語 L3 下村	物理２ 鍵山	日本語 L4 山中	日本語 L3 浮田	日本語作文 坂田
4	数学１ 谷本	化学１ 近藤		英語 石原	

07年度日韓共同理工系学部留学生
主な行事

	期間	行事等	見学（金曜）
W0	10/1-10/7	4渡日、5諸手続	
W1	10/8-10/14	8体育の日 9オリエンテーション、開講式 10授業開始	
W2	10/15-10/21		広島城、平和公園見学
W3	10/22-10/28		留学生ミカン狩り
W4	10/29-11/4	3文化の日	
W5	11/5-11/11		
W6	11/12-11/18		
W7	11/19-11/25	23勤労感謝の日	
W8	11/26-12/2		宮島見学
W9	12/3-12/9		
w10	12/10-12/16		
W11	12/17-12/23	23天皇誕生日	
		冬休み（12/23-1/6）	
W12	1/7-1/13		
W13	1/14-1/20	14成人の日	19-20江田島キャンプ
W14	1/21-1/27		
W15	1/28-2/3		
W16	2/4-2/10	5修了式	
W17	2/12-2/18	11建国記念日	しまなみ研修旅行

平成 19 年度　指導部門活動報告

中矢礼美（留学生センター・指導部門・准教授）

０．年間計画に基づく全体的な活動報告と来年度の改善点について

指導部門では、平成 19 年度の活動計画をもとに、以下のような活動を実施した。

○ 学内外の相談窓口について留学生に広く周知し，支援活動を行う際には適宜連携を図った。

○ 日本の文化・社会に適応できるように，留学生が直面する問題について，制度・法律の側面からの研究を行い、支援活動に役立てた。

○ 国際交流ボランティアの充実を図るためにオリエンテーションを 3 回開催した。ボランティアの活用を量的・質的に高めるために，活動報告を求め，改善に努めた。

○ チューター活動をより改善するために毎月活動記録簿を記載し、留学生と指導教員のサインを受けて提出してもらい、フォローした。

○ アメリカ，ドイツ，オーストラリア，トルコ，韓国，中国などの大学等との共同研究を行い，国際的な学術ネットワークを広げた。

○ 留学生支援調査を前期 1 回行い、その成果を教職員に公表することで、現状の把握と情報の共有を図った。

以上の活動状況を踏まえ、平成 20 年度以降は、以下事項について改善を計画している。

○留学生指導に関係する教職員による集会（留学生相談協議会）を開催し、今後の留学生支援体制について議論を行い、意識と情報の共有化と向上を目指す。

○ 国際交流関係のクラブ活動を把握し、日本人学生と留学生のネットワークについて把握し、相互支援を目指す。

○ 広島大学の今後の留学生支援体制、留学生センターの役割・機能のあり方、それを達成しうる体制について議論すべく、全国の元留学生センターの改組状況およびその効果と課題について情報収集を行う。

○ 留学生の就職支援を推進すべく、学内外の情報収集を行い、留学生に情報を広める。具体的には、卒業後日本で就職することに成功し、活躍している元広島大学留学生を招き、講演会を開くとともに、留学生のキャリア教育を行う。

○国際交流会を開催し、留学生、日本人学生、教職員の間の情報交換を行い、学生らによる自主的な活動ができるよう、基盤作りを行う。

１．主な行事報告・活動報告

1.1　オリエンテーションおよび行事

（前期）

４月６日（金）午後１時半より午後３時まで 国際交流会館の生活オリエンテーション

４月７日（土）午前10時から午後４時半まで オリエンテーション・バスツアー

４月９日（月）午後４時から午後６時半まで 全学のオリエンテーション

４月12日（木）午後２時35分から午後４時５分まで 図書館施設一般に関するオリエンテーション

４月19日（木）午後２時35分から午後４時５分まで ホームページおよび文献検索に関するオリエンテーション

（後期）

10月５日（金）午後１時半より午後３時まで 国際交流会館生活オリエンテーション

10月６日（土）午前10時から午後４時半まで 新入生のためのオリエンテーション・バスツアー

10月９日（火）午後４時から午後６時半まで 全学の新入留学生のためのオリエンテーション

10月11日（木）午後２時 35 分から午後４時５分まで 図書館施設一般に関するオリエンテーション

10月18日（木）午後２時35分から午後４時５分まで ホームページおよび文献検索に関するオリエンテーション

10月20日（土）午前10時から午前11時　国際交流会館の消防訓練

1.2　相談業務

留学生からの相談は、留学生一人につき複数回来室することが多く、また同時に多岐にわたる問題を抱えて相談にくるため、正確な相談訪問人数の提示は難しい。また、19 年度は報告者による病気休暇のため、正確な数値を出すことが困難である。そこで、本報告では、記録に残っているものを分類し、要約して報とする。

○内面的な悩み：努力しても、言語の壁によって好成績がとれないことへの不安・焦りからくる学業・大学不適応現象→臨床心理士による対応を中心として克服の支援を行った。

○　日本語学習における問題：日本語学習ニーズと大学提供のプログラムとのずれ。留学生センターでは日本語習得レベルに応じたきめ細かな日本語学習プログラムを用意しているものの、留学生は日常会話、レポート作成、ビジネス日本語学習機会を求めているものが少なからず存在する。

→学外のクラスの紹介や日本人学生ボランティアを紹介した。

○研究室・友人関係の問題：忙しい日本人学生が多く、遊び相手がみつからない。

研究室におけるいわれのないいじめ･暴力･指導教官による非介入に対する失望。

○　導教官との関係の問題：セクシャルハラスメント・アカデミックハラスメント（研究内容についての意見の齟齬による指導不足・疎外感）。
→学内のハラスメント相談室の紹介。

○経済問題：入学金免除、授業料免除、奨学金の授与、学生宿舎への入居すべてに該当せず、苦しい状態での勉学の続行の難しさ。恵まれている学生はよりよい条件・環境が整えられており、恵まれていない学生は、一切の援助のない状態ということへの不平・不満。
→、採用件数の少なさと合格の難しさ、文書化されている選考基準を丁寧に説明しそれでも納得のいかない場合は、本部での情報公開を勧めた。ただ、国際交流会館の入居選考手続きについては、要検討であろう。また、受け入れ指導教官による安易な私費留学生受け入れの態度の改め、留学生同士のうわさをとめる方法を探る必要がある。

○住居問題：敷金返金の際の金額の低さに対する苦情。入居時の巨額に対する苦情。
→日本の住居に関する問題の説明。今後は、地域の不動産とその不動産を活用する留学生双方に対する調査と対応が必要であろう。

２．2007 年前期の広島大学留学生支援調査「満足度指標」の結果報告

2,1　調査対象および回答者の属性

広島大学留学生課より入手したリストに従って，2007 年 5 月 1 日の現在で広島大学に登録した留学生 755 名全員に質問紙を配布した。この内，質問紙に回答したのは 266 名で，有効回答率は 35。23％であった。これらの回答者の学籍は，大学院生が 182 名(68.4%)，学部生が 30 名(11.3%)，研究生が 45 名(16.9%)，その他が 7 名(2.6%)であった。 1 名(0.4%)の留学生は記述がなかった。出身国・地域は，中国が 132 名(49.6%)，韓国が 16 名(6.0%)，台湾が 15 名(5.6%)，マレイシアが 8 名(3.0%)，インドネシアが 14 名(5.3%)，その他が 80 名(30.1%)で，未記入 1 名(0.4%)であった。また，女性が 142 名(53.4%)で，男性は，122 名(45.9%)であった。未記入が 1 名(0.4%)であった。また，私費の留学生が 153 名(57.5%)，国費の留学生が 105 名(39.5%)で，未記入が 8 名(3.0%)であった。また，理系が 107 名(40.2%)，文系が 140 名(52.6%)，その他が 6 名(2.3%)，未記入が 13 名(4.9%)であった。回答した留学生の平均年齢は，28 歳 10 カ月で，標準偏差は 5 歳 1 カ月であった。最も若い留学生は，19 歳で，最も年長は 52 歳であった。また，広島大学での在籍年数は，平均が 1 年 7 ヶ月で，標準偏差が 1 年 3 ヶ月であった。もっとも長いのは，６年という回答者がいた。また，短いのは０ヶ月(広島大学に来たところ)であった。

2.2　質問紙の内容

質問紙には，留学生の属性として，性別，年齢，出身国・地域，学籍，所属，私費・公費，専門，在籍年数，使用言語などを記入する欄を設けた。質問は，留学生が不満を抱きそうな項目について８種類に絞って，「全くそう思わない」が−２点，「そう思わない」が−１点，「どちらとも言えない」が０点，「そう思う」が１点，「とてもそう思う」が２点で集計した。この配点であれば，マイナスが不満で，プラスが満足を示すので，分かりやすい。また，総合的に判断して，広島大学での学習と生活および大学の授業や研究に満足しているかどうかを同様に判断してもらった。 したがって，満足度指標の全体では10種類の質問項目である。

2.3　手続き

各留学生の名前を記入した封筒に，質問紙と学内便による返信用の封筒を入れて，留学生の管理部局から配布していただいた。また，各管理部局には，質問紙の回答箱を用意して，入れられるようにした。さらに，返信用の封筒の表に留学生センター長および指導部門教員の名前が印刷されていたので，学内便でも返送が可能であった。

2.4　論文および指導教官との会話での使用言語

今回の調査では，もう少し詳しく回答者の属性を聞いた。まず，使用言語については，論文で使用する言語は，日本語が146名で，54.9%，英語が109名で41.0%であった。その他の回答は８名で，回答しなかった者が３名であった。回答者からみると，2006年までは，英語で論文を書く留学生が多かったのが，今回の調査では日本語で書く留学生が多くなっている。また，指導教官との会話では，日本語を使用する留学生が180名で67.7%，英語が80名で30.1%となった。その他および未記入が６名(2.3%)であった。論文の場合と同様に，日本語でコミュニケーションを取るという留学生が多数を占めた。

2.5　満足度指標および総合的満足度指標の概要

10 種類の質問について，−２点から２点までの連続変数であると仮定して，平均，標準偏差を算出した。得点は，表１に示したとおりである。すべての満足度指標において，マイナスはなかった。全体的にみて，留学生が広島大学での学習，研究，生活に満足していることを示している。八つの満足度指標のうち，プラスで１点以上になった満足度使指標は，「指導教員の研究に対する指導」と「大学図書館の利用」である。もっとも低かったのは「授業の内容の理解」で，やはり日本語の問題などもあるのか

満足度が低い。総合満足度指標として，学術指標である「授業と研究に対する総合的満足」が１以上であったのは，この学術面での努力の成果が認められているのではなかろうか。

2.6　パーセントで示した総合満足度

学術および生活の総合満足度をパーセントで示してみる。「満足している」かどうかについて，「そう思う」あるいは「とてもそう思う」と回答した人数を合わせて，有効回答者数で割った数値を満足度とする。その結果，学術面での総合満足度は，有効回答者数が 266 名で，上記の人数が 218 名であるので，81.95%の満足度という計算になる。また，生活面でも同様な計算をすると，有効回答者数 266 名に対して 203 名であり，76.32%の満足度である。両方合わせた平均の満足度は，79.14%であった。さらに，「不満」であると回答していない人数ということで計算すると，授業・研究への満足度が，254 名で 95.49%となり，さらに，日常生活への満足度は 247 名で，92.86%となる。両方合わせた平均は，94.18%である。極めて高い満足度である。

表１ 2007年前期の満足度指標の平均と標準偏差

#	満足度指標	有効回答数	満足度	標準偏差
1	指導教員の研究に対する指導	266	1.42	0.90
2	留学生の研究に関する知識	266	0.54	1.06
3	研究室の人達の助言	266	0.70	1.26
4	カリキュラムの適切性	266	0.62	1.05
5	授業の内容の理解	266	0.50	1.06
6	大学図書館の利用	266	1.08	0.88
7	日本での生活を楽しんでいる	266	0.97	1.01
8	留学生センターの情報提供	266	0.68	1.02
#	総合満足度指標	有効回答数	満足度	標準偏差
9	授業と研究に対する総合的満足	266	1.02	0.86
10	日常生活に対する総合的満足	266	0.91	0.92

注: １から10までの満足度指標は，２から-２までの変数である．

３．各種行事プログラム

3.1　広島大学国際交流懇親会

日時: 平成 19 年 11 月 19 日(月)　Date: Monday, November 19th, 2007

時間: 午後６時から８時まで　　Time: 18:00-20:00

場所: ホテルグランヴィア広島　４階 悠久

Place: The Yukyu, 4th Floor, Hotel Granvia Hiroshima

(Next to the JR Hiroshima Station)

＜アトラクション　Performances＞

１　日本 (Japan)

広島大学大道芸サークル「遊技団」は，2001 年 7 月 12 日に結成されました．大道芸を楽しむことを目的に活動し，その楽しさをみなで分かち合っています．毎週，練習を行い，そこで鍛えた技は大学祭で披露するほか，病院，学校，町のイベントなどで披露して皆さんに喜んでいただいています．

２ウイグル，中国 (Shinkiang Uighur, China)

アブドゲニさん，ルケヤさん，デリバルさんの３名がウイグルの踊りを披露してくれます．ウイグルはトルコ系の民族で，中国の新疆ウイグル自治区で暮らしています．ウイグル族には 12 ムカームと呼ばれる宝があります．ムカームとう言葉は偉大なる歌舞・音楽とう言う意味です．「ウイグル人がいるところに 12 ムカームがある．ウイグルの子は，歩けるようになると踊り，喋るようになると歌う」と昔から言われており，ウイグル族の生活から歌と踊りは切り離すことができないものです．

3. ミャンマー (Myanmar)

ミャンマーからの IDEC の留学生のアイェ・エイ・エイ・ニェインさん，オンマ・アイェ，サン・サン・ヒッウェイさんが伝統的な「良い新年」というミャンマーの踊りを披露してくれます．新年は，ミャンマー歴では４月 13 日から 16 日になる)の「水の祭」の時に，これが踊られます．滴る水は，去年の埃をはらってくれると信じられています．

4. ウズベキスタン (Uzbekistan)

ウズベキスタンからの留学生のローザさんとゼビニソさんが“Duppi tiktim”というダンスを披露してくれます．Duppi とはウズベキスタンの民族的な帽子です．Duppi の種類は 100 以上もあり，このダンスで２つの種類をご覧いただきます．ウズベキスタンの女性は結婚まで民族的な帽子とスザニを縫う習慣があります．一人で縫うのは大変なので，友達と集めて歌いながら協力して作ります．もう一曲は“Yor-Yor” という結婚式の音楽です．

5. マレーシア (Malaysia)

マザリザさんとその友達が，*Joget Malaysia* という歌とダンスを披露してくださいます．この歌は，マレーシアについてのカップルの会話形式になっています．Joget を歌ってくれます．

6. 中国とインドネシア　(China and Indonesia)

２人の HUSA プログラムの交換留学生がピアノを演奏してくれます．まず，中国から来ている Han Xiao Rong さんは，中国の曲 で「牧童短笛」を，インドネシアから来ている Mirantiputi Aisyah さんは，Bengawan Solo を演奏してくださいます．

7. バングラディシュ (Bangladeshi)

バングラディシュからの留学生レベッカさんのお嬢さんがバングラディシュの伝統的な踊りを披露してくださいます．その後で，バングラディシュのファッションショーが続きます．

8. ロシアとベラルーシ (Russia and Belarus)

ロシアからの留学生であるアンドレ・カルギンさんとベラルーシからの留学生のセディニナ・ハナさんが２曲歌を披露してくださいます．はじめは，the First Snow で，その年の初めての雪で，2 人が人生で初めて恋に落ちるという愛の歌です．次に，Strayed Summer で，この歌は，夏に出会った２人が，この幸せな夏が永遠に続くように願うという歌です．

9. 日本と韓国 (Japan and Korea)

HUSA プログラムの恒松先生が，韓国からの留学生で，IDEC の院生である Hyeon Jeong Jeon さんのピアノ伴奏とやはり IDAC の院生である太清伸さんのマラカス伴奏で２曲演奏します．1 曲は, Billy Joel の Honesty で，もう 1 曲は映画 Dream Girls から Beyonce の Listen です．

3.2　江田島青年の家　国際交流キャンプ　プログラム

趣　　旨　各国の青年たちが，人と人との相互の交流を通し，様々な文化に触れ，異文化を認め尊重し合う態度を身につけます。
また，英会話などの世界各国の言葉にふれる絶好のチャンスです。

主　　催　独立行政法人国立青少年教育振興機構　国立江田島青少年交流の家

共　　催　国立大学法人　広島大学

期　　日　平成２０年１月１９日（土）～２０日（日）１泊２日

会　　場　国立江田島青少年交流の家

対象・人数　国際交流に関心のある青年（高校生以上）等　　５０名

指 導 者　Hiroshima University ISC Professor　Dr. Katsuo Tamaoka
元江田島市教育委員会　国際交流員　Mr. Nathan　Duckworth
国立江田島青少年交流の家職員等

日　　程

	12:30	13:15	14:00	15:00	17:00	17:30	19:30	21:00	22:30		
1月20日(土)		受付	開講式 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	アイスブレイク	フィールドワーク 『 江田島探検 』 ・グループで，交流の家周辺（山，海岸等）を探検します		タベの集い	宿舎移動 入浴 夕食	レクリエーション ・レクリエーションを楽しむ中で交流を図ります。	自由	就寝準備	就寝

	7:10	7:50	8:20	9:00	12:00	13:00	13:30	15:00	15:15			
1月21日(日)	起床 身辺整理	朝の集い 清掃	朝食	身辺整理 休憩	グループワーク 『 お互いのことをもっと知ろう！ 』 ・グループ毎に協力して活動します。	昼食	退所点検	ふりかえり・まとめ ・グループでの活動を交流し合います	閉講式	解　散		

参加者数などにより，内容を変更する場合があります。

参 加 費　２，０００円（内訳…食費1，６００円，シーツ代１６０円，保険料１００円，雑費１４０円）

携 行 品　動きやすい服装，運動靴，ジャージ（長ズボン），着替え，洗面用具（※浴室には固形石鹸のみあります），筆記用具，保険証等（コピー可），その他必要なもの

申込方法　①名前（ふりがな）　②性別　③生年月日・年齢　④郵便番号・住所　⑤職業・学校名
⑥電話番号（差し支えなければ携帯電話番号もお願いします）　⑦送迎バスの利用の有無（港名）
⑧保護者名（高校生の方）

申 込 先　〒737-2126　広島県江田島市江田島町津久茂１－１－１
国立江田島青少年交流の家「国際交流キャンプ」係
TEL 0823-42-0661／FAX 0823-42-0664
E-mail：etajima-mado@niye.go.jp

申込〆切　**平成２０年１月７日（月）まで**に，必要事項を記入し，はがき，ＦＡＸ，電話またはＥメールで申し込んでください。　※Eメールは，その後の連絡が取りやすいので大歓迎です。

皆様からいただいた個人情報は，この事業についてのみ使用することとし，書類の扱いについては適正に行います。

当日のスタッフも合わせて募集しています。
事前スタッフキャンプ
平成２０年１月１２日（土）～１３日（日）

スタッフ希望の方は，青少年交流の家・岡川まで電話かＥメールで連絡下さい。

交通案内：交流の家からの送迎バス接続便

【往路】

広島(宇品)港発	11:45(フェリー・上村汽船)	→ 12:10	江田島（西沖）切串港着
呉ﾎﾟｰﾄﾋﾟｱ港発	12:00(フェリー・せとうち物流)	→ 12:12	江田島（吹越）切串港着
呉中央桟橋発	12:20(フェリー・ﾌｧｰｽﾄﾋﾞｰﾁ)	→ 12:40	江田島小用港着

【復路】

小用港発	15:35(フェリー・ﾌｧｰｽﾄﾋﾞｰﾁ)	→ 15:55	呉中央桟橋着
切串港(吹越桟橋)発	16:07(フェリー・せとうち物流)	→ 16:19	呉ﾎﾟｰﾄﾋﾟｱ港着
切串港(西沖桟橋)発	16:15(フェリー・上村汽船)	→ 16:45	広島(宇品)港着

教育交流部門

広島大学短期交換留学（HUSA）プログラム

堀田泰司・恒松直美
（広島大学留学生センター　教育交流部門）

活動の経緯と目的

広島大学短期交換留学プログラムは、1996年より日本国政府が推進した短期留学推進制度の一環として北米、オセアニア、アジア、ヨーロッパ諸国の大学（短期学生交流協定校）から、本学に一学期もしくは一学年の短期留学を希望する者を受入れ本学から同様に派遣するプログラムとして開始した。日本語の習得に加え、特別に「英語による授開設することにより、本学で教育を受ける機会を提供し、学生交流を活性化させ、本学業科目」をの一層の国際化に資することを目的とする。特に本学では、様々な学部から特色ある専門的科目や日本・アジア理解を推進する専門的科目を提供し、将来、日本やアジアの事情に通じた人材の育成に貢献するとともに、本学の学生が国際感覚を習得することを目指している。

また 2001 年より、こうした交換留学事業がより効率的且つ効果的におこなわれるよう UMAP 事業が提唱する UCTS（UMAP Credit Transfer Scheme）を適応している。HUSA プログラムは、国際交流推進会議の下部組織である短期留学交流プログラム部会によって統括されており、部会は、合計 15 名の各学部代表委員並びにその他委員により構成されている。但し、実務的な管理運営にあたっては、留学生センターの教育交流部門並びに学術室留学交流グループがその主たる業務を担っている。

Ⅰ．受け入れプログラムの概要

- 受け入れ期間：一学期または一学年
- 募集人員：　40 名
- 募集方法：学生交流協定を締結している（締結する）各国の大学に対し募集要項を配布し、公募する
- 応募資格：
  - （1） 本学との間に学生交流協定を締結している大学の学生または学生交流について双方が合意した書簡がある大学の学生
  - （2） 原則として自国の大学の正規課程３年次の学部学生（協定校によっては、院生も含む）
  - （3） 学業成績が優秀で日本留学に熱意を持つ者
  - （4） 非英語圏から応募する学生にあっては英語又は日本語による授業を履修できるのに必要な英語力を持つ者
- 選考方法：短プロ実施部会において、協定大学の推薦と UMAP 学修計画書を

参考にしながら、書類をもって選考する。

- 学生の身分と受け入れ方法：学生は、留学生センターで統括し、学部生は「特別聴講学生」、院生は「特別研究学生」（広島大学学生交流規定）として受け入れる。
- 授業料等の不徴収：交流協定に基づく、特別聴講学生として受け入れるので、授業料等を徴収しない。（なお授業料については、協定の中で「相互不徴収」について合意する必要がある）
- カリキュラム：授業科目は、３つの形態から構成されている。「特設科目」は、HUSA プログラムの学生のために特別に開設された主に英語による授業であり、「常設科目」は、既に学部で開設されていたものに、HUSA プログラムの学生が登録した場合、英語を交えて授業にするという条件のついた授業であり、日本人学生と共に履修するものである。第３に「日本語関係科目」は主に教育学部が開設し、留学生センターが実施している日本語・日本事情の科目である。さらに、日本語レベルが上級の学生は、各学部で日本人学生用に開設されている授業を受講することができる。また、授業科目はそれぞれの学部が開設しているものであり、その統括は各学部でおこなわれている。以下が、2007-2008 年度に開設された授業科目一覧表である。

2007-2008 年度（2007 年 10 月～2008 年 7 月）授業科目一覧

[2007 年度秋学期]

１．特設科目【Special Course】

授業科目名	単位数	備考
Japanese Economy	2 単位	経済学部
Theory and Practice of Multicultural Art Education	2 単位	教育学部
Family Life in Japan	2 単位	教育学部
Seminar in Japanese Culture and Education	2 単位	教育学部
Japanese Society and Gender Issues	2 単位	教育学部
The Japanese Culture and Education	2 単位	教育学部
History of Persons with Disabilities, Trends and Issues of Special Needs Education in Japan	2 単位	教育学部
Marine Biological Production in the Oceans	2 単位	生物生産学部
Introduction to Food Science	2 単位	生物生産学部
Communication Physical Science and Technology	2 単位	総合科学部

２．常設科目【Integrated Course】

授業科目名	単位数	備考
実験心理言語学	2 単位	総合科学部
異文化コミュニケーション論入門	2 単位	総合科学部
物理科学実験 B	3 単位	理学部
歴史風景解析学A	2 単位	文学部
アメリカ現代文学演習	2 単位	文学部
英語圏文学講義	2 単位	文学部
日本の法制度と社会	2 単位	法学部
現代日本語	2 単位	文学部
中期英語演習	2 単位	文学部
言語哲学B	2 単位	総合科学部
口腔の科学：食生活と全身の健康	2 単位	総合科学部
日本語・日本学B	2 単位	総合科学部
平和とは何か	2 単位	総合科学部
中世哲学研究	2 単位	文学部
人体構造 3	0 単位	医学部

（「人体構造 3」は聴講のみ、霞キャンパスで実施）

[2008 年度春学期]

１．特設科目【Special Course】

授業科目名	単位数	備考
Internship for HUSA program	2 単位	教育学部
Recent Developments in Biological Sciences	2 単位	理学部
Cross-Cultural Studies on Education	2 単位	教育学部
Peace and Human Rights	2 単位	教育学部
Development and International Education	2 単位	教育学部
Frontiers of Material Science	2 単位	総合科学部
Modern Chemistry	2 単位	理学部
Mathematical Structures	2 単位	教育学部
Introduction to Animal Production	2 単位	生物生産学部
International Macroeconomics	2 単位	経済学部

２．常設科目【Integrated Course】

授業科目名	単位数	備考
日本の政治と対外関係	2 単位	法学部
現代国際法演習	2 単位	総合科学部
メディア研究	2 単位	総合科学部
ヨーロッパ外観・観念分析	2 単位	文学部
言語心理学	2 単位	文学部
語用論	2 単位	総合科学部
宗教とは何か	2 単位	総合科学部
日本語・日本学A	2 単位	総合科学部
英語文法	2 単位	文学部
言語学入門	2 単位	総合科学部
医学国際協力研究	2 単位	医学部
細胞生物学	2 単位	医学部
物理科学実験 A	3 単位	理学部
景観生態学	2 単位	総合科学部
地球科学野外巡検A	1 単位	理学部
CMOS 論理回路設計	2 単位	工学部

日本語・日本事情関係科目

授業科目名	単位数	開講学期	備考
日本語初級 IA	2 単位	秋学期	留学生センター
日本語初級 IB	2 単位	秋学期	留学生センター
日本語初級 IC	2 単位	秋学期	留学生センター
日本語初級 ID	2 単位	秋学期	留学生センター
日本語初級 IIA	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語初級 IIB	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語初級 IIC	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 IA	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 IB	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 IC	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 IIA	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 IIB	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 IIC	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語聴解特別演習 A	2 単位	秋・春学期	留学生センター

日本語表現特別演習　A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語古文特別演習　A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級　B（リスニング）	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級　B（映画）	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級　B（古典）	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級　B（語彙）	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級　B（表現）	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級　B（分析）	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本社会・文化A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本社会と文化　B	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本の思想・哲学A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本思想と哲学　B	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本の地域・文化 A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本の地域・文化　B	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本の映像文化史　A	2 単位	秋・春学期	留学生センター

・受け入れ体制の整備：（1）日本における様々な体験学習の場を提供する。（2）学生宿舎（日本人・留学生混在型）を用意するとともに、ホームステイ受け入れ家庭との交流も促進する。（3）日本人学生チューターを事前に配置し、受け入れ開始と同時に留学生を支援する。（4）日本語学習の補助として日本人学生の会話パートナーを紹介する。（5）入国時身元保証人としては、各指導教員に依頼しないで、機関保障（広島大学）とする。（6）本学が提供する教育の質を保証する活動の一環とし、成績証明書に UMAP の単位互換方式である UCTS を導入し、単位互換を促進する。

II. 2007-2008 年度 HUSA プログラム留学生受け入れ状況

2007–2008 年度は，アメリカ，イギリス，インドネシア，オランダ，オーストラリア，オーストリア，韓国，シンガポール，スウェーデン，中国，ドイツ，フィリピン，ロシアの 44 大学と 1 コンソーシアム（2003 年度 27 大学，2004 年度 21 大学, 2005 年度 30 大学，2006 年度 42 大学）から計 37 名（2003 年度 47 名，2004 年度 43 名, 2005 年度 50 名，2006 年度 41 名）の留学生を受け入れた。期間は，殆どの学生が 1 年間の滞在を希望しており，男女別で見ると 2007 年度秋学期は男子学生 15 名，女子学生 22 名，2008 年度春学期は男子学生 14 名，女子学生 19 名であった。

III.　2007-2008 年度 HUSA プログラム受け入れ活動

申請と選考：2007 年度募集要項は、2007 年 1 月に各協定大学へ配布され、3 月末に各

大学から参加希望者が推薦された。推薦された学生について、4 月に、本学の選考委員会によって HUSA 参加者が正式決定された。今年度も受け入れ留学生の申請において、UMAP 学習計画書も申請書類の中に組み込み、選考や奨学金の推薦の参考資料として利用した。2004 年度の申請から、受け入れ留学生のオンライン登録を受け付け始めたが、2007 年度も同じオンライン登録を使用した。オンライン登録により、学生が直接インターネットから情報を入力し、受け入れ留学生のデーターベースが作成できるようになった。システムも毎年整備され、より効率的な形でオンライン登録ができた。HUSA 受け入れ学生が増加していくことが予測される中、今後も学生のデーターベース作成、管理にオンライン登録を活用していきたい。

渡日前の情報の提供：渡日前のオリエンテーションと日本での生活の準備を兼ねて、広島大学及び留学生活に関する情報を網羅した英語版の「短期交換留学生用手引き (Information for New Students)」を改訂して各学生に送付した。また、ホームページによって HUSA プログラム、広島大学、日本での生活について詳細な情報を提供するとともに、「よくある質問」を掲載し留学生がよく疑問に思う事項について説明した。さらに、2003 年度 HUSA プログラムより開講しているインターンシップ・コースについて情報も掲載した。それらに加え、学生の個人的な質問等には、電子メールやファックスを活用し、直接個々のケースに対応した。

チューターオリエンテーション：日本人学生チューターに対し、今年度も事前に 2 回の説明会を行った。第 1 回目は、チューターとしての全般的な支援活動の内容について説明し、第 2 回目は、留学生が来日する直前に、渡日後 1 週間の事務手続き並びに寮へ入居するまでの具体的な支援活動についてオリエンテーションを行った。

見学・体験学習： 2007 年度春学期には、4 月に花見会を開催し、日本人学生と交流の機会を持った。6 月には、愛媛県と広島県を結ぶ瀬戸内しまなみ海道を訪れ、大山祇神社、村上水軍博物館を見学し、日本史について見聞を深めた。2007 年度秋学期には、毎年のように 10 月から 11 月にかけて、酒祭り見学、秋大祭見学、文化交流のための学校訪問、地域学校との国際交流会など文化体験学習の機会を提供してきた。

授業科目の開設状況：短期プログラム用の開設科目は、毎年、各学部で審議され、今年度は、Special Course 及び Integrated Course（春学期 26 科目、秋学期 25 科目）、日本語教育（春学期 18 科目、秋学期 18 科目）が短期交換留学生のために開講された。日本語教育科目は、現在短期交換留学プログラム用の特設科目となっている。2003 年度から初級・中級を特設科目とし、上級の科目は研修生や正規留学生そして研究生と合同で受講することになり、幅広い充実した日本語カリキュラムが組まれている。

2003 年度より春学期にインターンシップ・コースを開設し、2003 年度は企業・公官庁に 2 名、2004 年度及び 2005 年度には各 6 名、2006 年度には 3 名、2007 年度には 7 名を派遣した。2005 年度より、インターンシップ派遣前に事前研修を行い、インターンシップに備えているが、2007 年度は研修をより強化し、社会人のマナーを身に着ける訓練を行った。インターンシップ開始前には、東広島商工会議所関係者、広島経済同友会広島中央支部国際問題委員会、及び受け入れ企業の関係者と懇親会を持ち親交を深めた。地域との連携の中で大学の国際化と留学生の日本での就業体験をさらに充実したものにしていきたい。

文化交流支援活動：

- 9 月に来日した際には、国際交流会を開催し、広島大学在学の学生を招いて、交流を深める機会を提供した。
- 2 つのホームステイプログラムを例年のように実施した。口和町教育委員会と協力して、11 月に第 10 回目のホームステイプログラムを実現した。参加した留学生は各家庭訪問に加え、全体での交流や、消防訓練実地体験、祝詞、着物着付け、餅つきなど日本文化体験を楽しんだ。また、忠海高校とも協力し、第 6 回目のホームステイプログラムを行った。家庭でのホームステイに加え、高校での全体交流、各グループに分かれて、茶道、書道、調理、メディアのクラスなどを体験した。
- 本年度は、10 月に広島大学付属三原小学校と共同でホームステイ・プログラムを作り、ホームステイする機会を増やした。11 月には、広島大学にて広島大学付属三原小学校との国際交流会を開催した。
- 当留学生センターの指導部門による国際交流ボランティア制度を利用し、日本人学生の会話パートナーを短期留学生に紹介する会合を開き、交流を促進した。また、日本人チューターを本年から選考方法を変え、国際交流ボランティア、広島大学電子掲示板を通して募集し、国際交流に関心の高い学生をチューターとして採用した。

地域貢献：2003 年度より、東広島商工会議所から、国際理解のための留学生の母国についての講和を依頼されている。2003 年度はフランス・韓国、2004 年度はアメリカ・カナダ・ギリシャ、2005 年度にはドイツ、2006 年度にはタイからの HUSA 留学生が商工会議所を訪問し、母国の文化・習慣や日本との相違について話した。また、HUSA 留学生が、地域の小学校・中学校・高校を訪れ、国際交流を行った。2007 年 9 月及び 2008 年 1 月には、国立江田島青年の家と広島大学留学生センターとの共催で、外国人と日本人が交流を通して異文化コミュニケーション能力を身につけることを目的とした「国際交流ボランティアセミナー」が江田島青年の家で開催され、HUSA 学生も参加した。さらに、2007 年 11 月には、留学生と留学生の家族、広島大学職員の参加するバス見学旅行「りんご狩りツアー」に HUSA 留学生も参加した。

HUSA 広報活動： HUSA ホームページにはプログラムの概要、申請方法、スタッフ紹介、HUSA に関するニュース、開講コース案内、シラバス、奨学金・寮・大学施設についての情報、国際交流イベント案内、HUSA パンフレット、広島大学及び地域についての情報など、すべてが網羅されている。サイトを常に更新し、HUSA プログラムについての最新情報を提供している。

HUSA プログラム評価：プログラム改善の参考とするため、毎学期、HUSA プログラム全体評価、各コース評価、学生チューター評価を行っている。学生にアンケート用紙を配布し、回収し、結果をまとめ、プログラム改善に役立てている。

IV　HUSA サマースクール：2007 年 6 月 25 日より 7 月 13 日まで 3 週間に渡り、HUSA サマースクールを開講した。本プログラムの概要は以下の通りである。

実施機関：広島大学が主催し、日本語教育と文化体験学習プログラム、そして宿泊は、(財)ひろしま国際センターが担当した。また、広島大学でも、HUSA プログラムの科目や一般教養科目等の一部に参加し、日本人学生や留学生と授業で交流する機会を設けた。

研修目的：広島大学短期交換留学（HUSA）プログラムを通し交流している協定校の学生に対し、広島大学並びに広島の風土や文化について理解を深めてもらう。また、これまで学習してきた日本語を運用する機会を提供し、自己の日本語の問題点を認識してもらうとともに、談話展開、日本語運用に必要な背景の理解など、海外での学習では得られにくい項目の学習機会を提供することにより、より実践的な日本語運用能力の向上を目指す。

到達目標：(1) 広島大学のキャンパスに親しみ、講義、研修、交流を通して広島の風土や文化について学ぶ。(2) ある程度の長さの発話をし、自身の日本語能力、談話展開上の問題点について知る。(3) 日本語母語話者との交流、文化体験等を通して、適切な日本語運用の際に必要となる、文化的な背景等についても学ぶ。

構成及び内容：

評価方法：　評価基準：S(秀)100-90%、A（優）89-80%、B（良）79-70%、C（可）69-60%、　D（不可）60%以下

研修員評価方法：[日本語中級]　出席・授業参加…10%、中間発表…40%、最終発表…50%　[日本文化]　出席・ディスカッションへの参加…20%、各講義・見学ごとのミニレポート(1-2 ページ) x 7 回…80%

コース評価：　研修員に対するアンケート調査および広島大学関係者による聞き取り調査によって評価する。

修了証明書：（1）広島大学短期交換留学プログラム、サマースクール修了証書、並

びに UMAP 成績証明書（ただし、短プロ部会長印のもの）
（２）国際プラザ、修了証書、並びに成績証明書

V. 2007-2008 年度 HUSA プログラム派遣留学活動

本学からの留学生派遣事業に関しては、本年度も１月初旬に応募者の選考試験を行い、１月中には実施委員会で選考、２～５月に受け入れ大学へ推薦という日程で選考・推薦を行っている。以下は、派遣学生の募集と選考に関してまとめたものである。

１．制度の趣旨：

短期交換留学プログラムは、学部生・大学院生が短期学生交流協定等に基づいて母国の大学に在籍しつつ、派遣先の大学において学習、異文化体験、語学の実地習得等を目的として、１学年または１学期の教育を受けて単位を取得し、研究指導を受ける制度である。現在は、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア、中国、韓国、ロシア、ポーランド、オーストリア、ドイツ、オランダ、スウェーデン、イギリスの大学から主として学部学生を短期交換留学生として招致し、本学の学部学生を各国各協定大学に派遣している。この交流事業は派遣先大学において授業料不徴収及び単位互換認定の制度を内容としており例年、以下の条件で募集を実施している。選考は、広島大学短期交換留学プログラム及び独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）短期留学推進制度による海外派遣学生を広島大学留学交流実施部会が同時に審査し、選考を行っている。

２．特徴：

- 授業料不徴収
- 単位互換制度
- 現地コーディネータのアシスタント
- 短期交換留学生との留学前の交流と留学後の現地での交流

３．出願書類

①派遣申請書
②留学計画書
③ＴＯＥＦＬ成績表
英語能力を応募条件とする大学に留学予定の学生；530 点（iBT73 点）以上が望ましい。ただし，ＵＳＡＣ語学文化研修応募希望者については，500 点（iBT61）が必須条件。

注．英語圏以外で英語能力を応募条件としない大学に留学予定の学生は，別途行う学内語学試験の成績による。

④学業成績証明書（大学院生については，学部の学業成績証明書も含む。）

４．出願書類提出先及び締切り

各学部等派遣留学担当係へ例年 11 月末ごろまでに提出する。

５．面接（口述）試験

学生から提出された申請書類の留学計画を基に例年1月の第1週に面接試験を行っている。試験は、広島大学留学交流実施部会の委員による１グループ３名程度の審査官によって実施され、審査員が学生の留学計画、異文化適応能力等についてそれぞれ５段階評価をつけ、その平均点が最終審査会の１つの評価指標として使用される。

６．選考委員会の実施

例年１月下旬に、広島大学短期留学交流プログラム部会において、派遣留学生の選考を実施している。選考に当たっては、主に学生の留学志望校、語学能力、面接試験結果、学業成績を考慮し、可能な限り多くの学生を推薦できるよう配慮しながら選考、推薦を行っている。

VI.　2007-2008 年度 HUSA 留学生派遣事業の実績

2007 年度の短期交換留学生派遣に関しては、16 名を推薦し、中国、韓国、アメリカ、オーストラリア、イギリスの 7 大学へ派遣した。また、2008 年 1 月には、2008-2009 年度派遣留学生の選考が行われ、すでに中国、マレーシア、オーストラリア、コスタリカ、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツの 12 大学へ 20 名の学生派遣が決定している。

VII.　HUSA 留学生派遣事業の活動状況

広報活動：19 年度は、例年通り HUSA 留学生も協力し、留学フェアを６月に開催した。各協定大学からの留学生がブースを設け、また日本人学生の派遣のための説明会も開催した。また、派遣留学のための協定大学の紹介や留学までの段階的な留学準備の仕方について HUSA ガイドブックを作成し、派遣留学生へ配布すると同時に HUSA ホームページでも閲覧できるようにした。

留学前の情報提供と留学計画の促進：例年、派遣が決定した本学の学生に対し 2 度に渡るオリエンテーションを実施しており、留学に関する一般的な情報と共に、協定校から来ている留学生との交流の場を提供している。その学生間の交流は留学後も続き、協定校においても継続的な交流活動が行われている。また、留学前に指導教官並びに学部との単位互換に関する話し合いの場を設ける意味で、UMAP 学習計画書を 4 月の第 1 回目のオリエンテーションで配布し、留学 2～3 ヶ月前までに、提出するよう要求してい

る。

INU 特別協力講義：昨年度、INU ネットワークを利用し、派遣留学を促進するために初めて INU 特別協力講義 A と B を開設した。19 年度は、INU ネットワークを促進する委員のリーダーシップにより、科目数をさらに 1 科目増やすことができた。INU 特別協力講義は、一般の教養科目として開講されているが INU ネットワークを利用しアメリカとオーストラリアの協定大学の教員によるビデオ講義を活用し、WebCT 上で授業を展開するオンライン教育科目である。

VIII. 主なその他の活動

UMAP 活動への貢献：本学の教育交流部門は、学外での活動としてアジア太平洋諸国の政府並びに高等教育機関によって運営されている UMAP（アジア太平洋学生交流機構）の学生交流促進事業にこれまでにも積極的に参加してきた。19 年度は、UMAP 国際事務局並びに理事会が新たに開発した USCO（UMAP 学生交流オンラインシステム）プロジェクトのシステム開発のアドバイザーとして参加し、オンラインシステムの立ち上げに協力した。また、20 年度から開始する USCO システムを利用したＵＭＡＰ学生交流活動にも参加し、すでにタマサート大学（タイ）とマレーシア科学大学（マレーシア）からの受入れが決定している。

活動日誌

[2007 年]

5 月　St Mary's University（カナダ）国際部マネージャー来校

7 月　ノーベル平和賞受賞(2006)ムハマド・ユヌス氏講演　「開発と平和」
（第2回広島大学平和講演会、主催　広島大学）　恒松・堀田・西谷　通訳

米国のペンシルバニア大学がコーディネートする大学教員の日本視察団に対し、「日本の教育の現状」について講演

University of Graz（オーストリア）より来校

10月　タイのバンコクで開催されたUMAP国際理事会にUSCO開発プロジェクトのテクニカルアドバイザーとして参加

12月　Leeds Metropolitan University（イギリス）, Dean of the Leslie Silver 来校

立命館アジア太平洋大学（大分県別府市）にて「立命館アジア太平洋大学の英語教育と国際化を高める交流プログラムについての情報交換会」出席

Cardiff Univesrity（イギリス）より協定締結について来校

クローニンゲン大学（オランダ）Director of Undergraduate and Graduate Studiesが来校し、欧州の高等教育改革の最前線について講演

[2008年]

２月　British Councilより　British Council西日本代表・教育＆パートナーシップ・マネージャー（西日本）来校

University of Jyvaskyla（フィンランド）学長・フィンランド大使館所長・フィンランド大使館学術担当マネージャー来校

UMAP国際事務局のUSCOプロジェクトを推進するためタイのバンコクで開催された国際会議並びにワークショップに参加

３月　James Madison University(アメリカ)国際部マネージャー来校

2007年度広島大学留学生センター講演・討論会
「留学生教育体制のあり方」

報告者：中矢礼美、中川正弘

日時：2008年2月29日（金）13：00〜17：00
場所：教育学部第３，４会議室

講演　「留学生教育の夢と現実」

リム・ロンユー（香川大学留学生センター長）

リム・ロンユー氏による講演内容は、以下の通りであった（配布資料より）。

まず、講演を進めるにあたってのフレームワークが提示され、元留学生、センター教員、センター長という３つの「顔」で進行することが説明された。次いで、留学生の夢とは何か、デマンドとして考えるべきではないか、留学生にとっての「現実」とは如何なるものか、について言及された。

第一の「顔」である「元留学生」として、１）教育、２）学内での支援、学生交流、３）地元住民との連携、４）住宅、奨学金、就職の４点について、それぞれ体験に基づいた分析が示された。続いて、第二の「顔」である「元センター教員」として同様に４点について分析が示された。最後に、第三の「顔」としてセンター長の立場から、以下のことについて述べられた。

〇センター業務（広大流）

〇「国際センター」に拡大すると？

・学部教員が期待している拡大業務（特に学術交流協定の業務）

・事務局の視点からは？

・留学生へのサービス向上になる？

・同じく、日本人学生へのサービスは？

〇センター拡大するにあたり

・誰のため、何のために拡大するのか

・先に「看板」掲げるのは？

・我々専任教員、事務職員は先に拡大した機能をしてから、センターの改組を

〇必要な５つの「条件」

・全学の国際戦略の立案

・担当教員の補充

・事務組織の一元化
・施設整備の充実
・自立化（機構から独立）

〇拡大したセンター像とは

・日本語教育事業：日本語・日本事情等の授業、各教員担当
・指導・交流事業：教員全員、共同担当
・教育交流事業：受け入れ及び派遣は、教員共同担当
・学術交流協定事業：本来通り、窓口となる学部教員が担当
・留学生グループと学術交流の事務局を統合

留学生センターの体制について、実際に業務に携わる立場から留学生および日本人学生へのサービスを広く、深く考察され、活動効率を上げるための方策、条件およびあるべき姿を具体的に提示された。

留学生センターの体制の再考・変更は、現在ほとんどの大学が直面している問題であり、講演者による具体的かつ斬新な視点による分析は刺激的で、参加者全員が熱心に傾聴し、有益な情報となった。

討論会「留学生教育体制のあり方」

まず、広島大学留学生センターがこの講演・討論会に際して事前に行った留学生センター体制の動向に関するアンケート調査結果（23 大学回答）について説明を行った。討論会は「留学生教育体制のあり方」と題して、講演の内容とアンケート結果を踏まえて議論の方向が示され、日本語教育、指導、教育交流について、現在の状況、留学生教育・支援体制の変更点およびその効果という視点から、討論を行った。

１．日本語教育

正規科目としての日本語教育の位置づけについて議論を投げかけた。

・留学生に、質の高い教育をどのように提供するかを考慮しなければならない。
・授業を英語で行うか、日本語で行うかについて、以下のような発言があった。
・英語の授業を日本の大学で開講することはすばらしい。
・短期交換留学プログラムの留学生の五分の四は日本語での対処が難しい。
・授業では英語で対処できても、授業時間以外では、留学生は日本語で対処できない。学外だからと言って無視はできない。どこまで大学教員、事務担当者は対処すべきか。
・日本人のボランティアの利用はどうか。日本人学生も一緒に受講できる授業で交流さ

せる。ボランティアチューターに仕事を振り分ける。日本人学生にとってもいい経験となる。

留学生が日本語を勉強した際に単位が認定されるかについては、以下のような回答があった。

・京都大学：交換留学生の日本語教育の単位については、京都大学としての単位はこれまで認めていなかった。日本語教育はあくまでサポートであり、単位は認定されなかった。しかし、日本人派遣学生は単位をもらって帰ってくる。そこで単位を認定するようにすると、交換留学生たちはやる気が出て、欠席も少なくなった。

・新潟大学：日本語、日本事情は全学教育科目（G コード科目）の中で留学生基本科目として設定されている。その他、新潟大学個性化科目(eg. Corporate Culture in Japan: 内容は Japanese business writing で定員の半数は留学生)として開講している科目などは履修すれば単位になる。国際協力関係の授業は、日本人向けだが、留学生も受講すれば単位になる。

・広島大学：正規科目については以前から単位は出している。それ以外に開講する補講では成績は認定するが、単位の認定は行っていない。

・弘前大学：国際交流科目は日本語と英語で行われている。正規生についてはこの科目の扱いが学部によって違う。ある水準以上のレベルに達していれば単位と認定される。自由科目として扱い、日本人学生もこの国際交流科目で単位を取得できるようにしている。
こちらから海外に派遣した場合も認定してもらうためである。

・岡山大学：日本人学生も単位が取得できるようにすると、多くの日本人学生が受講するようになり、日本人学生の国際化に寄与している。

・小樽商科大学：日本語科目は正規科目。外国語科目と同じステータスの科目。予備教育の場合は、単位を認定できない。だが、それ以外は単位化されるべき。特に理系の学生は日本語を学ぶ意欲を失ってしまう。

・広島大学：学生の質も問題。留学生と呼べる水準の学生ばかりではない。これにどう対処するか。留学生の意識（eg.こちらに来る前に調べておく）、能力の不足の問題が残っている。（日本の大学ならば日本語で授業という考え方をする一方、英語で授業できる先生が必要とも考える。この矛盾をどうとらえるか。）
→小樽商科：最初のセメスターは英語、その後日本語の割合を増やしていく。

2．留学生指導・教育交流

留学生指導の範囲、効果的・効率的な支援のための教育交流の人材ネットワークと場所

について、以下のような議論が行われた。

・警察沙汰になりそうな場合のみ、教員が手助けする。頻度はそんなに多くないだろう。
・いつも誰かがいる状態を作っておく。日本人学生、ホームステイ先の家族など。
・何かあったときに、頼って行けるような場所を作る。できるだけ数も多く、入って行きやすい雰囲気のラウンジ。
・非常時に対応する事務担当者の役割。例えば、警察沙汰になれば事務が対応。教員がその度ごとに引っ張り出されることはない。短期の留学生には留学生センターが対応し、正規生には各学部の専門教育担当教員が責任を持って対応。
・(弘前大学) 健康管理センターの活用。ガイダンスにも来てもらう。肉体的にも精神的にも支援できる体制の整備が必要。
・(新潟大学) 教育・心のケアが必要となる場合はセンターの教員全員で分担して対応する。
・人材の確保　数人受け入れるのと、数十人受け入れるのでは異なる。大人数を受け入れる場合はどうするのか。留学生と日本人学生や地域の住民が交流できるラウンジを設けている大学？→　11 大学。広島大学にはない。
・本当にしっかり世話をしてくれるボランティアは少ない。
・ラウンジの効果、場の大切さはどのように認識されているか。交流の場所はどのようなものがあり、独立した施設となっているか。
・京都大学「きずな」の場合。インターネットのアクセス可。チューターが常駐。留学生と日本人学生が一緒にご飯などが食べられる。いっしょに飲食するような機会（二時間半くらい）を設定。そのアレンジは学生に任せる。公費は支出しない。
・弘前大学では、職員の持ち場の真ん前にラウンジがある。事務職員には少し迷惑。インターネットアクセスが可能。
・新潟大学はコーヒーアワーを設けている。留学生センターの教室でボランティア学生による日本語教室を開講したり、チューターを呼び集めてセンターが留学生の修学状況、生活状況を把握するための機会を持っている。
・小樽商科大学はまずラウンジを作った。警察沙汰になる事件のあったのがきっかけ。センターという施設、組織を作る前にラウンジが必要とされた。
・広島大学では、センター職員のみでは留学生の個別問題に対処しきれないため、事務職員からのサポートも必要としている。しかし、言葉の問題がどうしてもあるため、保健管理センターなどでも、十分な対応が期待できない。学生チューターによる通訳なども活用したいが、ハラスメント相談室などでは秘密保持の問題もあるため、学生チューターでは対応できない。就職のサポートをするキャリアセンターは日本人学生と同じ対応しかできないため、留学生のニーズに合わない。

・埼玉大学は、改組により、事務職員と教員が一つのフロアになった。新しいセンターに変わる際、交流企画部門に英語の堪能な事務職員が准教授として採用された。
・ホームステイは引き受け先がなかなか見つからない。よい方法はないか。
・センターという施設、組織のいい活用方法は他にないか？変更の提案は？

３．留学生センター改組について

留学生センターから国際センター／国際交流センターになった大学では実際どのように変わったか、何がどう良くなったかについて、活発な議論が行われた。

・京都大学の場合、忙しくなった。留学生 1,300 人に対して、センターの教員は９人。留学生の多くは学部・研究科所属である。これまでは日本語教育、相談部門、日本人学生の派遣を担当してきた。基本的な業務は留学生の受け入れだった。改組後は、全学の国際交流のための活動。例えば、学部・研究科の教員の国際的な学術交流、大学の国際化のための企画の立案にも参画。企画を担当できる組織になったことで発言力が増した。事務部門に関しては、英語が堪能な職員が留学生課に２名。その他、非常勤職員は英語に堪能な人が多い。

（新しい業務『企画立案』が増えたが、人員の増は？これまで行っていた業務内容で削減されたものは？）

→新規採用教員はセンター直属であり、他の学部などとの兼務なしが望ましい。
センター長の業務は、企画に６割、授業に２割、雑務に２割という比率。
企画専門担当者を募集。非常勤職員を活用。兼務できるセンターの教員は兼務。

（研究はどうするのか。）

→研究を発表する場を作ろうとしている。センターでやっていることを研究課題とできるようにする。事例研究を増やすべき。帰納的な研究が必要とされていると認識している。センターの教員が研究成果を発表できる機会を増やすべき。

・新潟大学の場合、法人化した時に国際センターに改組。予算・権限が一元化し、学長直属の組織となった。名称が新しくなったがスタッフは変らず、業務内容が国際連携全般へと拡大した。センターの留学生も学長直属となった（式典などには以前から学長が出席）。事務職員は、以前からあった国際研究を支援する課と留学生課が一体になった。事務職員の中から国際交流を専門的に担当できる人、留学経験のある人を登用。日本人学生の派遣については、事務職員と協力して種々企画を進めている。ビザ、海外保険など事務的なものは特に。

・弘前大学の場合。2007 年から国際交流センターへ。教員組織の変更については改組の一年前から検討が行われた。センターとしては教員、学生、職員、地域社会との交流を念頭に置き検討した。教員配置の変更や協力の仕方などをこちらから示すことはな

かった。提携のある大学から何か話があればその窓口となる。教員は５名、うち日本語の授業担当者２名、英語で授業が行える教員３名。

・埼玉大学の場合、学長直属の研究協力部に所属が「格上げ」。日本語教育を部門化し、センター内の一部門に。新センターになり、研究のための時間が少なくなったことが一番懸念される。

・岡山大学の場合、センターの運営委員会には、センターの教授全員とセンター長、他学部の代表者が参加していましたが、その後、運営委員会にはセンターの教員からは交流部門の教員１名が参加するのみとなりました。また、日本語教育の教員は１名削減が予定されるなど、日本語教育がセンターの中心とは言えなくなる傾向があります。日本語教員としては大学の中の留学生教育における日本語教育の重要性、専門性が認知されるように努力しなければならないと考えます。

・早稲田大学の場合、留学生の支援体制は整っている。英語の堪能な事務員が多い。ホームステイサービス、また留学生のコミュニティーでお互いに助け合う環境が整っている。

・広島大学に限らず留学生センターの教員の実績は、承認などの人事の際には、日ごろの留学生支援実績ではなく、研究論文等で評価される傾向がある。「実際に自分がやっていることを研究課題とできるように」という提案に賛成する。これまで研究者として学んだことを生かせるように、また学生を助けることが評価されるようにしていきたい。

最後に、以下のようなコメントが出された。

・清泉女子：心のケアについて言えば、他の国と比べ、日本は充実している。逆にやりすぎと見られる場合もある。オーストラリアでは、留学生へのこのようなケアは少ない。

以上、現在多くの大学が直面している留学生教育・指導・研究の問題について、留学生センター、およびそれに相当する組織の機能について、活発な議論が行われた。

2007年度広島大学留学生センター講演・討論会参加者名簿

（五十音順）

＜講演者＞			
Lrong Lim	香川大学	留学生センター	センター長・教授
＜招待参加者＞			
阿波村　稔	新潟大学	国際センター	センター長・教授
倉又　秀一	弘前大学	国際交流センター	センター長・教授
森　純一	京都大学	国際交流センター	センター長・教授
＜客員研究員＞			
Erich Berendt	清泉女子大学	文学部	教授
小川　誉子美	横浜国立大学	留学生センター	教授
金田　智子	独立行政法人国立国語研究所	日本語教育基盤情報センター	グループ長
上條　厚	信州大学	全学教育機構	准教授
上別府　隆男	東京女学館大学	国際教養学部	教授
熊野　七絵	独立行政法人国際交流基金関西国際センター		専任講師
後藤　美知子	広島大学	留学生センター	非常勤講師
齋藤　美智子	岡山大学	国際センター	教授
佐藤　由利子	東京工業大学	留学生センター	准教授
田中　京子	名古屋大学	留学生センター	准教授
船津　秀樹	小樽商科大学	商学部	教授
八木　恵子	埼玉大学	国際交流センター	教授
矢野　安剛	早稲田大学	教育・総合科学学術院	教授
＜一般参加者＞			
塩井　実香	香川大学	留学生センター	講師
高水　徹	香川大学	留学生センター	講師
湯浅　賢一	香川大学	教育学生支援室	留学生グループリーダー

＜広島大学＞		
田畑　佳則	留学生センター	センター長・教授
多和田眞一郎		教授
浮田　三郎		教授
中川　正弘		教授
深見　兼孝		准教授
田村　泰男		准教授
石原　淳也		准教授
中矢　礼美		准教授
恒松　直美		准教授

留学生センター教員研究・その他の活動業績

１．研究論文・著書

R. M. Sandhya PRIYADARSHANI, 浮田三郎「日本語とシンハラ語の授受表現の対照研究ー「アゲル」「クレル」「モラウ」を中心にー」西日本言語学会編『ニダバ』第 37 号, 2008 年, pp. 163-162.

田村泰男「常用辞書における連体詞の認定について」『留学生教育』, 第 12 号, 2008 年, pp.43-50.

多和田眞一郎　『沖縄語音韻史研究の基盤構築・整備』, 平成 18 年度・19 年度科学研究費補助金（基盤研究(C)）研究成果報告書(2), 広島大学留学生センター, 2008 年 3 月.

恒松直美「短期交換留学生向けインターンシップと研修ーグローバル社会における地域ネットワークと大学教育ー」『広島大学留学生センター紀要』, 第 18 号, 2008 年, pp.1-16.

恒松直美「スピリチュアリティ研究と高等教育ーフェミニズム理論と近代に関する諸理論からの示唆ー」『留学生教育』, 第 12 号, 2008 年, pp.25-41.

中川正弘「日本語の文字習得とベクトル認識ーApple iTunes 準拠の日本語文字書き映像教材ー」『留学生教育』, 第 12 号, 2008 年, pp.1-13.

中矢礼美, 中川正弘「留学生支援体制の現状と今後の課題」, 『留学生教育』, 第12号, 2008年, pp.15-24.

Do Hoang Ngan, 深見兼孝「日本語聴解の難しさ・聞き取れない原因及び聴解教育に関する卒業生の意識調査」, 『日本語学・日本語教育国際シンポジウム論文集』, ハノイ国家大学出版社, 2007 年, pp.295-303.

深見兼孝　「日本語のオソロシイ／コワイと朝鮮語のmusɔpta / tulyɔpta について」『ニダバ』第 37 号, 2008 年, pp. 173-182.

堀田泰司 「日本の留学生政策における学生交流の新たな展開方策：ＵＣＴＳとバイリンガル教育の活用を求めて」 『大学論集』第 39 集, 2007 年, pp. 205 - 221.

２．学会発表

浮田三郎 「現代ギリシア語における月に関する諺(2)」日本ギリシア語ギリシア文学会, 広島大学, 2007 年 11 月 10 日.

多和田眞一郎「日本語とハングル資料－沖縄語音韻史とハングル資料」, 韓国日本文化学会 2007 年度秋季大会, 檀国大学天安キャンパス, 2007 年 10 月 27 日.

深見兼孝 「日本語のオソロシイ／コワイと朝鮮語のmusɔpta / tulyɔpta」, 西日本言語学会, 第 37 回大会, 九州産業大学国際文化学部, 2007 年 9 月 15 日.

Do Hoang Ngan, 深見兼孝 「日本語聴解の難しさ・聞き取れない原因及び聴解教育に関する卒業生の意識調査」, 日本語・日本語教育国際シンポジウム, Melia Hanoi (メリアホテル), ベトナム, 2007 年 11 月 15 日.

堀田泰司 「欧州高等教育改革（ボローニャ・プロセス）における TUNING PROJECT の役割：新たな教育の質保証を目指して」日本総合学術学会, 19 年度秋季大会, 2007 年 11 月 23 日.

３．学術研究補助金

多和田眞一郎 研究代表者（平成 18 年度～平成 19 年度）科学研究費補助金基盤研究 C 「沖縄語音韻史研究の基盤構築・整備」

恒松直美 研究代表者（平成 20 年度）「外国人留学生・日本人留学生に対する国際教育の改善を目指した調査研究」広島大学学長裁量経費助成金

堀田泰司 研究代表者（平成 19 年度～平成 20 年度）科学研究費補助金基盤研究 C 「ヨーロッパ高等教育改革における ECTS（欧州単位互換制度）の実践的効果と課題」

4．その他の活動

A. 地域貢献、社会貢献

浮田三郎　財団法人石田教育振興財団評議員

多和田眞一郎　「キワニス留学生奨学金・日本語作文」審査委員長

堀田泰司　UMAP 日本国内委員会専門委員

B. 学会活動

浮田三郎　日本ギリシア語ギリシア文学会会長

浮田三郎　言語文化教育学会理事

浮田三郎　西日本言語学会運営委員

多和田眞一郎　日本総合学術学会会長

多和田眞一郎　広島韓国研究会副会長

多和田眞一郎　韓国日本文化学会海外理事

多和田眞一郎　大韓日語日文学会海外理事

恒松直美　日本総合学術学会監事

中川正弘　日本フランス語フランス文学会中国・四国支部編集委員長

中川正弘　広島大学フランス文学研究会参与

深見兼孝　西日本言語学会運営委員

深見兼孝　日本総合学術学会理事

深見兼孝　広島韓国研究会理事

C. 講演・ワークショップ等

浮田三郎「比較言語文化論の視点」，中国首都師範大学, 2007 年 12 月 1 日.

浮田三郎　公開講座「現代ギリシアのことばと文化」, 2007 年 6－7 月.

堀田泰司「UMAP, UCTS and USCO (UMAP Student Connection Online Project)」，アジア・太平洋大学交流機構（University Mobility in Asia and Pacific, 以下 UMAP）国際会議『UMAP Workshop on the USCO』タイ高等教育省主催，タイ，バンコク, 2007 年 7 月 6 日.

堀田泰司（パネリスト）「Reality and Future Challenges of Student Mobility Schemes in Higher Education between ECTS in Europe and UCTS in Japan」アジア・太平洋大学交流機構（University Mobility in Asia and Pacific, 以下 UMAP）国際大会『UMAP Exective Seminar』国際事務局主催，タイ，バンコク，2007 年 10 月 5 日.

堀田泰司「Japanese Cultural Briefing」、UNITAR『Sea and Human Security』研修コース，国連訓練調査研究所（UNITAR）アジア太平洋地域広島事務所, 2007 年 10 月 13 日.

堀田泰司「Japanese Cultural Briefing」、UNITAR『Fellowship for Afghanistan』研修コース，国連訓練調査研究所（UNITAR）アジア太平洋地域広島事務所, 2007 年 11 月 11 日.